

2013 年度  
認知症介護研究・研修  
東京センター  
年報

序にかえて

2013年度の年報をお届けする。研究事業と研修事業が行われた。主な研究事業には、認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究事業、認知症地域支援推進員研修における効果的な人材育成のあり方と認知症地域支援推進員の活動体制の構築に関する研究事業、認知症の地域ケアにおけるケアと医療の連携に関する研究事業、認知症介護実践者等要請事業の体系的な評価体制の確立に向けた試みに関する研究事業などが含まれる。認知症地域支援推進員は認知症初期集中支援チーム事業とともに2012年度から始められたオレンジプランの主要事業の1つであり、認知症の人を支えるための大きな役割を担っている。全国1700以上の自治体で積極的な活動を展開している地域はまだまだ少ないが、今年度の成果も踏まえ、来年度は行政担当者のためのガイドラインの作成も予定されている。

研修事業は9週間にわたる認知症介護指導者養成研修、同フォローアップ研修、認知症地域支援推進員研修、同フォローアップ研修、ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修がある。特に認知症介護指導者養成研修は認知症ケアに携わる人材の育成では大きな役割を果たしてきているが、今後の地域包括ケアを踏まえさらなる研修内容の充実が求められ、転換期を迎えているといっても過言ではない。地域のニーズに対応した内容をいかに盛り込むことができるかが求められている。

啓発活動は、2013年度東京センター研究成果報告会、平成24年度3センター合同研究成果報告会、および2013年度認知症介護指導者養成研修事業都道府県等行政担当者セミナーが行われた。認知症ケアの課題の1つは地域を含む関係者の認知症に関する啓発であることはすでに指摘されているが、今後も仙台センター、大府センターと連携しつつ認知症ケアに取り組んでいきたい。関係者の忌憚のないご意見をいただければ幸いである。



2014年3月  
認知症介護研究・研修東京センター  
センター長 本間 昭

序にかえて …………… 3

## Ⅰ 研究活動

1. 研究活動の概要 ……………	8
2. 2013年度の研究事業成果報告 ……………	9
1) 認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究事業 ……………	9
2) 認知症地域資源連携検討事業 ……………	11
3) 認知症地域支援推進員研修における効果的な人材育成のあり方と認知症地域支援推進員の活動体制の構築に関する研究事業 ……………	13
4) 認知症の地域ケアにおけるケアと医療との連携に関する研究事業 ……………	15
5) 認知症介護実践者等養成事業の体系的な評価体制の確立に向けた試みに関する研究事業 ……………	17

---

## Ⅱ 研修活動

1. 2013年度の研修活動の概要 …………… 20
2. 2013年度の研修活動報告 …………… 21
  - 1) 認知症介護指導者養成研修 …………… 21
  - 2) 認知症介護指導者フォローアップ研修 …………… 27
  - 3) 認知症地域支援推進員研修 …………… 31
  - 4) 認知症地域支援推進員フォローアップ研修 …………… 34
  - 5) ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修 …………… 36

## Ⅲ その他の事業

1. 2013年度東京センター研究成果報告会 …………… 40
2. 認知症介護研究・研修センター平成24年度3センター合同研究成果報告会 …………… 41
3. 2013年度認知症介護実践者等養成事業にかかる都道府県等行政担当者セミナー …………… 43
4. 第6期市町村介護保険事業計画作成にあたっての「認知症ケアパス作成のための手引き」の活用に係る説明会 …………… 45

## Ⅳ スタッフ紹介 …………… 48

## Ⅴ 運営部活動報告

1. 事業実績報告 …………… 58
2. 2013年度東京センター活動一覧 …………… 60

白

I

研究活動

## 1. 研究活動の概要

認知症介護研究・研修センター（仙台、東京、大府）が発足して14年の歳月が経過し、認知症の人を含め高齢者全体の生活や介護をめぐる社会の状況や制度・サービスが大きく変化している。急増が続く認知症の人をケア現場や社会でよりよく支援していくあり方を提示していくために、東京センターでは、「地域ケア」とこれからの認知症ケアを推進していく「人材育成（認知症介護指導者、認知症地域支援推進員）」を重点課題として研究を行っている。

研究テーマとしては、まず国施策を推進していくための研究として、1) 認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究事業（介護報酬改定検証・研究委員会）、2) 認知症地域資源連携検討事業（認知症対策等総合支援事業）、3) 認知症地域支援推進員研修における効果的な人材育成のあり方と認知症地域支援推進員の活動体制の構築に関する研究事業（老人保健健康増進等事業）の3事業を国庫補助により実施した。これらの研究結果は、いずれも2014年度以降の介護保険制度やケア現場ならびに地域における認知症ケアの推進のあり方に反映されていくことになる。

また、ケアやその人材育成のより実質的なあり方を改善していくための研究として、4) 認知症の地域ケアにおけるケアと医療との連携に関する研究事業、5) 認知症介護実践者等養成事業の体系的な評価体制の確立に向けた試みに関する研究事業の2事業が東京センターの運営費で行われ、得られた成果を速やかにケア現場や関係者に普及を図っていくことが期待されている。

いずれの研究も、2013年度の成果や課題をもとに、よりテーマや内容を吟味しながら、2014年度も研究を継続発展させていく予定である。

なお、限られた研究費を有効に活用しつつケア現場や地域社会により役に立つ研究成果を生み出していくために、これから求められる認知症ケアの全体像とそのための人材像をセンターとして再吟味しながら、各研究の位置づけや研究相互の関連性を整理し、研究テーマごとの連動性や協働体制の強化を図っていくこともセンターとしての重大課題となっている。これについては、2014年度は、仙台センター、大府センターとともに今まで以上に協議や調整を行いながら研究体制を整備していく必要がある。

いずれにしても、認知症の本人・家族、ケア関係者、地域の実情に根差し、それらに貢献する研究になるために、センターでの研修を経て全国各地でケアや人材育成、地域づくり等で実践を積み上げている認知症介護指導者や認知症地域支援推進員、自治体行政職員の方々とセンターとの継続的な関係を築きながら、ケアの最前線とセンターにおける研究・研修（人材育成）との良循環の流れを確かなものにしていくことが求められている。

## 2. 2013年度の研究事業成果報告

平成 24 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査  
(平成 25 年度調査)

### 1) 認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究事業

調査検討組織 (○は委員長)

○栗田 主一 (地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進  
と介護予防研究チーム研究部長)

落合 亮太 (東京女子医科大学看護学部 講師)

島田 孝一 (株式会社 Professional Works 認知症対応型通所介護つむぎ  
代表取締役)

助川 未枝保 (一般社団法人日本介護支援専門員協会 常務理事, 株式会社千葉  
福祉総合研究所ピースアカデミー 代表取締役・所長)

武田 純子 (有限会社ライフアート デイサービスモア・サロン福寿 代表取締役)

中川 龍治 (公益社団法人日本精神科病院協会 高齢者医療・介護保険委員会委員,  
医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院 院長)

本間 昭 (社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター センター長)

松浦 美知代 (医療法人財団青山会 介護老人保健施設なのはな苑 看護部長)

(敬称略, 50 音順)

#### 【オブザーバー】

勝又 浜子 厚生労働省老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室 室長

三浦 正樹 厚生労働省老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室 室長補佐

右田 周平 厚生労働省老健局高齢者支援課 老人介護専門官

#### 【事務局】

佐藤 信人 社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター 運営部長

進藤 由美 社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター 研究主幹

#### ■事業の目的

認知症対応型通所介護 (以下,「認デイ」)は,認知症の人が自宅での安心のある穏やかな日々を可能な限り継続していくために,専門的な支援を提供しなければならない。そのためには,「住み慣れた環境」や「なじみの関係」「小規模な単位」といった視点でケアを行うことが重要である。そこで本調査研究事業では,認デイに求められる役割を明確にし,その役割を果たすためのサービス内容を実施できるような物理的・人的環境を整備することを目的に,①認知症の専門的ケアを行うための姿勢や実践状況,②医療的措置が必要な人への対応,③事業所経営の課題,④自宅での生活との連動を図るための家族支援の実施状況,⑤認知症対応型通所介護の利用効果,に関する調査を行い,認デイのあり方について検討を行った。

調査は質問紙による「事業所調査」,「利用者調査」,「主な介護者調査」の3種類を実施し,他に聞き取り調査を行った。また,事業所調査票,利用者調査票,主な介護者調査票は,社会福祉法人浴風会 倫理委員会の確認・承認を経て実施した。



## ■調査結果

調査ごとの発出数と有効回収数・有効回収率は以下のとおりである。

調査票名	発出数	有効回収数	有効回収率
施設・事業所票	2,887	1,461	50.6%
利用者調査（1事業所に10部配布） ※	28,870	12,564	43.5%
主な介護者調査（1事業所に10部配布） ※	28,870	11,954	41.4%
聞き取り調査票	-	21	-

※利用者調査と主な介護者調査は、1事業所当たり10部ずつ発出したが、登録者が10名に満たない事業所も多い（特に共用型。1事業所当たりの平均登録者数：4.8名）ことから、実際の回収率はこれらの数字より高い。

質問紙調査の結果は、認デイの事業所、利用者、認デイを利用している人の主な介護者のそれぞれの状況について把握をするために、基礎集計を行うと同時に、検討課題についてはより詳細な状況を把握するため、クロス集計等を行った。代表的な結果は以下のとおりである。

### <事業所の基本情報>

- ・有効回答事業所（1,461事業所）の事業形態の内訳は、単独型が731事業所（50.0%）、併設型が514事業所（35.2%）、共用型が119事業所（8.1%）、無回答が97事業所（6.6%）であった。
- ・法人種別は、単独型と共用型は営利法人が最も多く、次いで社会福祉法人、NPO法人であった。それに対し、併設型は社会福祉法人が最も多く、次いで医療法人であった。
- ・利用者について、1事業所当たりの平均登録者数は単独型が20.3名、併設型が21.8名、共用型が4.8名であった。（1日当たりの定員は、単独型と併設型がそれぞれ12名、共用型が3名に定められているため、共用型のみ平均登録者数が少ないのは自然である）
- ・平成25年9月における営業日数の平均は25.0日で、休業日なし（30日営業した）の事業所は341事業所（23.3%）であった。
- ・職員配置で最も多いのは介護職員で、次いで看護職員であった。
- ・介護保険適用外のサービスを用意している事業所は、宿泊が357事業所（24.4%）、利用時間延長サービスが413事業所（28.3%）、朝食・夕食の提供サービスが448事業所（30.7%）であったが、平成25年9月に提供実績があったのは、宿泊が109事業所、利用時間延長サービスが122事業所、朝食・夕食の提供サービスは198事業所であった。

### <認知症の専門的ケアの実践状況>

回答のあった事業所の多くは認知症の専門的ケアについて「実践できている」と回答し、認知症の症状が軽減されたケースが多かった。また、他の介護保険サービスを断られた経験のある人の受け皿として、認デイが利用されているという報告があった。

### <医療的措置が必要への対応>

医療的措置が必要な利用者の受け入れは積極的に行われていた。

### <事業所経営の課題>

稼働率の全体平均は58.0%で、回答者（管理者）の主観として黒字と回答した事業所は約41%、赤字と回答した事業所は約35%であった。また、利用者確保に困難を感じる理由として、「入院や入所となる利用者が多い」、「区分支給限度基準額により、ショートステイや通所介護の利用を優先する家族が多い」等の報告があった。また、欠席の理由としては体調不良が最も多く、次いでショートステイの利用、通院が続いた。

### <家族支援の実施状況>

「個別の介護アドバイス（実施率94.2%）」や「個別の相談受付（同95.6%）」は実施率が高かったが、「介護者勉強会の開催」は29.8%にとどまった。しかし、聞き取り調査では、介護者にケアの手法や対応の仕方などを伝えることで家族が認知症に対する理解を深め、心理的負担が軽減することや、本人への対応に変化が見られたといった報告があった。

## 2) 認知症地域資源連携検討事業

本間 昭（社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター）  
永田 久美子（社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター）  
中川 由紀子（大崎市民生部高齢介護課）  
佐々木 一憲（宇都宮市保健福祉部高齢福祉課）  
國松 明美（湯沢町地域包括支援センター）  
稲垣 康次（富士宮市福祉総合相談課）  
庄司 彰義（岸和田市保健福祉部福祉政策課）  
稲田 秀樹（ケアサロンさくら 鎌倉市）  
大木 智恵子（グループホームいずみ 西東京市）

### ■目的

厚生労働省が進める認知症対策等総合支援事業の一環として、認知症地域支援の取組みの先進事例等を収集し、その効果、課題等の整理・分析を行い、地域資源の連携のあり方を自治体に提示し、効果的な認知症地域支援体制づくりの普及を進めることを目的とした。

### ■方法

- 1) 認知症地域資源連携検討委員会の開催：自治体関係者、地域包括支援センター職員、ケアサービス事業者、認知症疾患医療センター連携担当者、認知症の人の在宅診療を行っている医師ら計8名の委員からなる委員会を7回開催した（2013年6月、8月、9月、10月、11月、2014年1月、2月）。自治体/地域で今後の認知症地域支援体制づくりを着実に継続的に進めていくために役立つ事例の内容の検討、認知症地域支援体制づくりを効果的・持続発展的に展開していくためのポイントの抽出と検討、事例の活用方法の検討等を行った。
- 2) 自治体による認知症地域資源連携・支援体制づくりの効果的な展開を推進するための各種会議・セミナーの一体的な実施
  - (1) 全国認知症地域支援体制推進会議（東京）：都道府県担当者等を対象に6月に開催（参加者188名）。市区町村の取組みを都道府県担当者が適切にナビゲーション・バックアップしていくための基本的考え方や取組み事例の情報提供を行った。
  - (2) 認知症地域支援体制推進全国合同セミナー（以下、合同セミナー）：市区町村等の担当者を対象に、年度内のポイントになる時期に合わせて3回（7月、10月、1月）、各回とも2日間のプログラムで開催（参加者延数358名）。市区町村の担当者としての必要な基本的な知識や考え方、直面する課題を解消していくための工夫、効果的な進め方の具体策等を、取組み事例をもとに情報提供するとともに、他地域の最新情報を直接聞きながら自地域でのその後のより効果的な進め方を検討・協議するためのグループワークを実施。参加者同士が、自地域に戻ってから情報交換等をしあえるためのネットワーキングを行った。
  - (3) 認知症地域支援体制地域普及セミナー：自治体の現場で実際に取組みを進めていく立場の関係者（地域包括支援センター等の職員等）を対象に、自治体担当者と連携しながら取組みを進めていくためのポイントを実践事例の報告をもとに伝え普及をはかるためのセミナー（半日）を全国4会場（福岡、広島、東京、福島）で開催（参加者計550名）。各会場ともに経年的に取組みを着実に発展させている事例と取組み間もないながら効果的な展開を進めている事例を組み合わせた報告内容とし4会場各4地域、計16地域の取組み事例に関する情報提供を行った。

なお、上記のすべての会議・セミナーの会場内に、全国の取組み事例のポスター展示や関連資料の閲覧コーナーを設置するとともに、当日提供した資料・ワークシート等を DC ネット上にアップし、各地の取組み情報の利活用の促進をはかった。

## ■結果・考察

### 1) 市町村における認知症地域資源連携・地域支援体制づくり推進に関する成果

- ① セミナー等による直接的な成果：自治体としての方針・役割，具体策の強化：一連の会議・セミナー参加者の事後アンケート結果によると、「取組みを推進していく上での見方・考え方の見直しや補強になった」が各回ともに8割以上にのぼった。内容としては、「広範・多岐にわたる認知症施策の個別事業をバラバラに進めていたが，本人の視点にたって施策や事業の再構築をはかる」，「本人の地域での生活支援という共通目標を行政として掲げ，医療・介護はもとより地域の多様な資源に視野を広げて連携体制を構築する」等，自治体としての今後の取組みの方向性を左右する上で重要な，方針・役割の強化につながったことが確認された。自地域の今後の地域支援隊づくりや取組みに活かせる点については各回ともに9割以上の参加者が「具体的にあった」「参考になるアイデア，ヒントが見つかった」と回答。個々の自治体の取組みの進捗状況に応じて地域資源連携・支援体制づくりを具体的に強化するためにセミナー等が直接的に役立っていることが示唆された。
- ② 手法や資料を活用した間接的な成果：管内市町村の取組みの一体的推進・格差の是正：合同セミナー形式や配布資料・ワークシート等を活用し，県による管内関係者を対象としたセミナーが開催され，「管内の市町村担当者に役割や具体策を伝えるために有効だった」「管内の市町村の取組みや進捗状況を一元的に把握するために役だった」「広範囲・多数の市町村担当者との関係づくりやその後の指導・助言のために役立った」「市町村の取組み格差の解消に役立った」等，多様な効果がフィードバックされた。
- ③ ネットワーキングを通じた間接的成果：セミナー後，自治体職員同士が連絡，情報交換，先行の成果物の交換，視察，先進地域の関係者（を自地域に招へいしての研修や会議の開催等，他地域の力を活かした多様な取組みが展開された。他地域の力を借りることで「今まで何年も動かなかった医療との連携が進んだ」「自地域の資源でも可能な初期支援の具体的な進め方がみつかった」「専門職，地域の多様な資源を巻き込んだの SOS ネットワークづくりが進み，見守りネットワークとの連動が始まった」等の成果が寄せられた。

### 2) 今後の課題

本事業を通じて，市町村ごとの取組みの進展には，都道府県による管内市町村へのナビゲーション・バックアップのあり方の関与が大きいことが示唆された。①自治体の取組みのポイントや参考事例を，都道府県を通じて各市町村担当者や関係者等に十分に行き渡らせるための情報提供の拡充，②都道府県単位で管内市区町村を対象とした合同セミナー開催を支援し，都道府県が管内市区町村の取組みを一体的に推進しつつ，市区町村の進捗状況をモニタリングしていくための方法や共通データベースづくり等の支援を行っていくこと，③行政担当者と地域での取組みを推進する直接的な役割を有する人材（地域支援推進員等）との効果的な役割分担や連携のあり方の検討と普及を進めていくことが必要である。

### 3) 認知症地域支援推進員研修における効果的な人材育成のあり方と 認知症地域支援推進員の活動体制の構築に関する研究事業

- 本間 昭（社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター）  
畑野 相子（国立大学法人滋賀医科大学医学部 看護学科臨床看護学講座  
老年看護学）  
矢吹 知之（社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修大府仙台センター）  
佐藤 アキ（熊本県山鹿市市民福祉部介護保険課）  
守田 ミドリ（東京都福祉保健局高齢社会対策部 在宅支援課認知症支援調整担当）  
木村 功（社会福祉法人琵琶湖愛輪会 特別養護老人ホーム松の浦湯治の郷）  
佐藤 信人（社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター）  
谷 規久子（社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター）

○：委員長

#### ■目的

より効果的に「認知症地域支援推進員研修（以下、「推進員研修」という）を実施するために、昨年度の成果をふまえて、新たな教材開発を行いながら、推進員研修・推進員フォローアップ研修の内容を洗練した上で研修を実施する。

#### ■方法

目的達成に向け、次の①～④を実施した。①推進員研修の実施、②推進員フォローアップ研修の実施、③2012年度推進員研修修了者の実態把握、④2013年度推進員研修受講者に対する調査

#### ■結果

①定員 50～70 名で、3 日間の研修を 5 回実施した。開催場所は北海道、仙台、東京、大阪、福岡で、全 5 回延べ参加者数は 330 名であった。そのうち直営包括に所属する者が 163 名（49.7%）、民間法人に所属する者が 129 名（39.3%）、市町村行政に所属するものが 101 名（31%）、その他 27 名（8.2%）であった。單元ごとのレビューによりから満足度等を把握したところ、ほとんどの科目で 5 点満点で平均値が 4 点以上となり、高い評価が得られた。自由記述において研修への意見・要望を尋ねたところ、主な意見として「講義の中に認知症に関するものもあった方がよい。」「もう少しグループワークがあっても良かった。」「2 日目のナイトセミナーは、やはり辛いものがあった。」などといった意見があった。

②定員 100 名で、1.5 日間の研修を 3 回実施した。のべ受講者数は 124 名であった。各科目のレビューでは、ほとんどの科目で平均値が 5 点満点で平均点 4 点以上となり、高い評価が得られた。フォローアップ研修に対する意見・要望について自由記述形式で尋ねたところ、主な回答として、「活動発表会のようなものを行って欲しい」「参加者がもっと交流できると良かった」「東京ではなく、地方での開催を希望します」などといった回答が得られた。

③2012年度推進員研修修了者を対象に自記式調査票による調査では、146名から得られた（回収率56.2%）。活動状況については、回答者の82.9%（121名）が認知症地域支援推進員（以下、「推進員」という）として活動していると回答し、15.8%（23名）が活動していないと回答した。推進員として活動していない理由としては、配置転換が9名（39.1%）、その他が12名（52.2%）であった。その他の具体的理由としては、支援するために研修に参加したといった回答が多かった。同調査で推進員研修前後の意識や行動の変化について尋ねたところ、回答者の49.3%（72名）が、変化があったと回答し、41.8%（61名）がどちらとも言えない、4.1%（6名）が変化はなかったと回答した。変化があった具体的な内容は、「先進事例に刺激を受けた」「推進員の役割を常に考えて行動するようになった」「役割に自信が持てるようになった」「認知症担当の意識が明確になった」などが挙げられた。

④2013年度推進員研修参加者を対象とした自記式調査では、328名から回答を得ることができた（回収率99.3%）。市町村との連携の有無では、「連絡がとれている」と回答した者は179名（54.6%）で、「連絡がとれていない」と回答した者は37名（11.3%）、「どちらでもない」と回答した者が87名（26.5%）であった。担当する地域の人口では、「1万人以上、5万人未満」（104名、36.9%）が最も多く、次いで「10万人以上、30万人未満」（58名、20.6%）、「5万人以上10万人未満」（56名、19.9%）が続いた。平均人口は132,628名であった。担当する地域の地域包括支援センター数については、「1カ所」が最も多く166名（55.1%）、「2～5カ所」（57名、18.9%）、「6～9カ所」（42名、14.0%）が続いた。認知症地域支援推進員として担当する地域の要介護認定者数については、分からないと回答した者が、105名と多く、無回答が3名であった。わからない及び無回答の者を除く220名については、「1千人以上、3千人未満」（75名、34.1%）が最も多く、次いで「1千人未満」（42名、19.1%）、「5千人以上、1万人未満」（38名、17.3%）であった。

#### ■考察

結果から推進員研修を受講した推進員は、研修において満足の得られる研修を受講できていることが示唆された。フォローアップ研修も含めて、役割を明確にし活動の実践事例を提供する内容に対するニーズが高いことが伺えた。今後さらに優良実践事例の収集などを通じ、取り組みを可視化しより実践的な内容へと研修を洗練していくことが望まれる。

#### 4) 認知症の地域ケアにおけるケアと医療との連携に関する研究事業

本間 昭	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
須貝 佑一	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
児玉 桂子	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
永田 久美子	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
谷 規久子	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
佐藤 信人	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
進藤 由美	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
中村 考一	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
飯田 勤	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)
渡邊 浩文	(社会福祉法人浴風会)	認知症介護研究・研修東京センター)

##### ■目的

本研究は介護支援専門員とかかりつけ医が連携をとりながら認知症の人の医療やケアを行ううえで必要な、背景・要因・スキル等を明らかにし、もって認知症の医療及びケアの向上と、地域における連携の向上を図ることを目的とする。本研究は3年の研究期間を予定している。最終年度となる2013年度は、認知症の人の支援をより効率的かつ効果的に行うために、介護支援専門員とかかりつけ医の顔と顔のみえる関係づくりを地域において意図的に推進していくための方法について明らかにすることを目指し、地域のかかりつけ医と介護支援専門員の認知症の人の支援に関する連携をテーマにしたアクションミーティングを実施し、その効果を検証する。このミーティングは、①研修会・事例検討会といった形によらず、むしろそれらと並行して行われることにより日常の介護支援専門員・かかりつけ医間の連携を促進し、結果として研修会・事例検討会の活性化、連携システムの効果的運用等に波及させること、②地域包括ケアを前提とした小地域単位で実施し、ミーティングを通して形成された顔と顔のみえる関係が、ミーティング終了後の実践に生かすことができるようにすること、③会議・研修というような形式ではなく、「ざっくばらんに」率直な意見を交わしあい、相互理解を深めるようなテーマや仕掛けづくりをねらいとしている。

##### ■方法

東京都内のA区のかかりつけ医、地域包括支援センター及び介護支援専門員を対象とした。かかりつけ医に関してはA区医師会に協力を依頼し、各地区2名ずつの推薦によって参加者を決定した。介護支援専門員については、各地域包括支援センターと協議の上、ミーティング終了後の顔と顔のみえる関係性の維持という目的を考慮したうえで、募集の範囲を決定し、各地域包括支援センターから募集を行った。

アクションミーティングを実施する際、参加者を2つのグループにわけ、それぞれのグループにかかりつけ医が1名ずつ参加した。司会・ファシリテーションは地域包括支援センタースタッフが行った。時間は1時間半から2時間の間で実施され、軽食、お茶、お菓子を用意し、各グループの座席間の距離は狭くするなどの会場の工夫を行い、会議という雰囲気ではなく、ざっくばらんな雰囲気で見えが交わらせるようにした。各会場は、各地域包括支援センターと相談の上、参加者の参加しやすさを考慮して決定した。ミーティングのテーマは「認知症の人と家族を支えていくうえでの先生とケアマネの連携についての体験」を話しながら、よりよくするための連携のアイデアを出し合うこととした。

アクションミーティングの効果を検証することを目的に、ミーティング開始前に介護支援専門員を対象にアンケート用紙を配布した。また、アクションミーティング終了後、参加医師を対象に、ミーティングに参加しての感想、参加した介護支援専門員に対する助言等を自由記述で記入を依頼した。

### ■結果

A 地区は、2014 年 2 月 24 日（月）に実施した。介護支援専門員 8 名、医師 2 名、地域包括支援センタースタッフ 2 名が参加した。B 地区は、2014 年 3 月 21 日（火）に介護支援専門員 9 名、医師 2 名、地域包括支援センタースタッフ 2 名が参加した。C 地区は、2014 年 3 月 24 日（水）に介護支援専門員 17 名、医師 2 名、地域包括支援センタースタッフ 4 名が参加した。

ミーティングでは、医師・介護支援専門員間の連携でポジティブな体験の意見を求めたが、介護支援専門員が医師との連携で困難に感じたケースについての内容についても多くの意見が出された。それに関する助言やコメントがやりとりされる形でお互いの学びを深めていくような意見の交換が行われた。

アンケートは、32 票が回収され、回収率は 94.1%だった。ミーティング前のアンケート結果では、かかりつけ医との連携が必要と感じる際に十分な連携がとれる状態にある利用者の割合については 3 割程度が 25%ともっとも多かった。また、かかりつけ医と連携する上での課題について、「担当者会議の医師への依頼を躊躇してしまう」は 6 割弱が「とても感じる」と回答していた。「医師との連絡時間や連絡方法がない」に 4 割強が「とても感じる」と回答していた。

ミーティング終了後のアンケートでは、ミーティングについての感想は、参加者の 83.9% がとてもよかったと回答した。その理由として 75%が「医師の率直な意見が聞けた」「ざっくばらんに話せて医師と顔のみえる関係づくりのきっかけになった」と回答した。

### ■考察

実施後のアンケート結果から、本ミーティングが介護支援専門員とかかりつけ医が「ざっくばらんに」率直な意見を交わしあい、相互理解を深めるようなテーマや仕掛けづくりという点においては、効果的な取り組みであったといえると考えられる。

## 5) 認知症介護実践者等養成事業の体系的な評価体制の確立に向けた試みに関する研究事業

児玉 桂子 (社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター)  
谷 規久子 (社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター)  
中村 考一 (社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター)  
飯田 勤 (社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター)

### 1 事業の目的

東京センターではこれまでに、認知症介護実践者等養成事業における認知症介護実践者研修（以下、「実践者研修」という）、認知症介護リーダー研修（以下、「リーダー研修」という）及び認知症介護指導者養成研修（以下、「指導者研修」という）の自己評価としての活用を念頭に76項目からなる「認知症ケア自己能力評価尺度」の開発を進めてきた。本尺度は、実践者研修、リーダー研修、指導者研修とステップが進むごとに評価が高くなることが検証されているが、研修前後で同調査を実施し、効果が測定できるか確認できていない。本研究では、同尺度の研修前後での活用の可能性について検討することを目的とする。

### 2 事業概要

調査協力に同意の得られた地域において、4：よくできる（76～100%）、3：だいたいできる（51～75%）、2：多少できる（26～50%）、1：ほとんどできない（0～25%）能力評価尺度を研修開始時及び修了時並びに3か月後に配布し、各76項目の平均値の前後の変化をt検定により分析した。対象地域数及び調査客体数は下表のとおりであった。

表

調査1	実践者研修	4地域	282名
調査2	リーダー研修	2地域	62名
調査3	指導者研修	1センター	46名

### 3 調査研究の過程

調査時期の遅れにより、調査1、調査2の3か月後調査については、来年度実施することとした。調査2について、インフルエンザ等の流行により修了時調査の客体数が62名から54名に減少した。

### 4 事業結果

調査の結果、各研修のすべての項目で研修前後の平均値が上昇していた。実践者研修では46項目がt検定により1%水準で平均値に有意差が認められ、13項目で5%水準での有意差が認められた。同じくリーダー研修では55項目が1%水準で平均値に有意差が認められ、12項目で5%水準での有意差が認められた。さらに指導者研修では57項目で1%水準で有意差が認められ、14項目で5%水準での有意差が認められた。結果から、本評価尺度が研修前後での評価に利用できる可能性が示唆された。今後は他の評価指標との関連の確認や、実施マニュアル作成等が課題となる。





II

研修活動

## 1. 2013年度の研修活動の概要

研修部が中心となり実施する主な研修は、1)認知症介護指導者養成研修および2)同フォローアップ研修、3)認知症地域支援推進員研修および4)同フォローアップ研修、5)ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修である。

- 1) 2013年度の認知症指導者養成研修では、年間2回(各9週間)の研修を行い合計45名の認知症介護指導者を送り出すことができた。12年目を迎えたこの研修で、これまでに672名の認知症介護指導者が修了したことになる。この研修の目的は、各地で行われる認知症介護実践者研修を企画・立案・実践、介護保険施設・事業所における認知症介護の質の向上、および地域資源の連携体制構築に必要な能力を身につけて、認知症に対する地域の介護サービスを推進する人材の育成にある。近年、研修の効果を体系的に検証することが求められており、それに対して多様な方法で取り組んできたが、昨年度は研修生の理解度の確認のために終了時テストと最終レポートを試みたが、本年度はそれに加え、模擬演習、他施設実習、職場研修において研修生同士の数値による相互評価を加えより評価を体系化した。
- 2) 認知症介護指導者フォローアップ研修は、指導者研修修了者を対象として、最新の知識や指導方法等の習得を目的に5日間で開催される。2013年度のフォローアップ研修は16地域から合計23名の指導者が受講した。
- 3) 認知症地域支援推進員研修は2011年度から市町村に配置された認知症地域支援推進員を対象に、地域の医療機関や介護サービスおよび地域の支援機関をつなぐコーディネーターを担える人材育成を目的に3日間で開催を行った。2013年度は、アクセシビリティの向上をねらい地方開催を増やした。具体的には、北海道、仙台、東京、大阪、福岡の5か所で1回ずつ研修を実施し、330名(67名増)が修了した。すなわち、これまでに295の市町村から、847名が認知症地域支援推進員研修を修了したこととなり、これは2017年度末までに700人を養成するというオレンジプランの当面5年の目標数の121.0%にあたる。
- 4) 認知症地域推進員フォローアップ研修を2日間の日程で2012年度に引き続き本年度も開催して、124名(昨年度より74名増)の参加を得た。本年度は受講者に対する事前アンケートからニーズ把握を行い、事前課題をまとめた上で研修での情報提供を行うなど、受講者のニーズに合わせた情報提供・意見交換ができるスタイルへとカリキュラムを修正し、同時に優良実践事例の集積を図った。引き続きカリキュラムの更なる検討を加えながら、オレンジプランに応えられる内容としていきたい。
- 5) ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修は、認知症ケア高度化事業で開発された「ひもときシート」を活用して、介護者中心になりがちな思考を認知症高齢者本人中心の思考に転換して、課題解決につなげることを目的とする。2013年度はこれまでの研修に加えて、リーダー研修修了者及び認知症介護指導者を対象とした講師養成研修を2回実施し、40名が研修を受講した。これによって、地域でひもときシートに関する研修の受講希望があった際に講師養成研修修了者を紹介し、広くひもときシートを普及していくための、体制づくりの嚆矢となった。認知症ケア高度化事業の元ワーキング委員に講師として協力を頂き、これまで実施していた研修は「実践者コース」と位置付け3回(各1日)の研修として実施し、129名が参加・修了した。本研修は認知症介護業務等に従事する者であれば受講ができる開かれた研修であり、地域に普及しつつある。

## 2. 2013年度の研修活動報告

### 1) 認知症介護指導者養成研修

2013年度の認知症介護指導者研修は2回実施し、第1回に23名、第2回に22名が修了し、合計45名の認知症介護指導者を各地に送り出すことができた。したがってこれまでに672名の認知症介護指導者が修了したこととなる。2013年度の各回の修了者一覧を図表1に挙げた。2013年度の第1回及び第2回の外来講師は図表2に示した。また2013年度の研修カリキュラムの構造を図表3に示した。

図表1 2013年度認知症介護指導者養成研修修了者一覧

	第1回 (36回生)		第2回 (37回生)	
	県推薦	事業所推薦	県推薦	事業所推薦
茨城県		中山 真一	笠原 ちさと	
栃木県	馬籠 順子			
	高橋 由香			
群馬県		島宮 久美子	金田 優子	
埼玉県	市村 聡子			
千葉県			内川 薫	
			中之庄 まき	
			梅岡 みどり	
東京都	田口 実		能丸 創	
	市本 洋			
神奈川県	嘉山 武志		三橋 敏彦	
			石田 久美子	
新潟県			高橋 舞子	羽深 昌代
福岡県	甲木 敏光		坂本 純子	
長崎県	檉川 恭子		秋元 靖博	
熊本県	森田 千香子		池田 和浩	山口 健児
大分県				
宮崎県	甲斐 沙織		戸並 桂子	上原 恵美子
鹿児島県		齋藤 浩二	山元 豊	
沖縄県	奥山 博史		大城 真悟	
千葉市	滝澤 秀児		田中 由美	
横浜市	高田 朱美			
	村松 ひかる			
北九州市			岡島 清美	
福岡市		徳永 美栄子		田中 恵子
さいたま市	齋藤 恵里			
新潟市	宇都宮 秀子		青木 裕子	
相模原市	安部 記子	阿部 敦子		
熊本市	福永 和博			
計	18	5	18	4
合計	23		22	

Ⅱ  
研修活動

図表2 2013年度認知症介護指導者養成研修担当講師一覧

氏名	日程	単元名	所属
本間 昭	①②	『認知症介護指導者の役割の理解』	東京センター
児玉 桂子	①②	『認知症高齢者が安心できる環境づくり』	東京センター
佐藤 信人	①②	『チームアプローチ&リーダーシップ演習』	東京センター
	①②	『認知症介護に関連する法制度の理解』	東京センター
永田 久美子	①②	『認知症になっても安心して暮らせる町をめざして』	東京センター
渡邊 浩文	①	『認知症介護実践研究の方法』	武蔵野大学
進藤 由美	②	『認知症介護実践研究の方法』	東京センター
西原 亜矢子	①②	『おとなの学びが実るために』	新潟大学医学部 保健学科
宮島 渡	①	『認知症介護理念の重要性の理解と展開方法』	社会福祉法人 恵仁福祉協会 アザレアンさなだ
内藤 佳津雄	①②	『認知症介護における人材育成の方向性』	日本大学文理学部
池田 恵利子	①②	『地域における高齢者虐待防止と権利擁護』	公益社団法人 あい権利擁護支援ネット
岩尾 貢	①	『地域連携の理解』	特別養護老人ホーム サンライフたきの里
菱沼 幹男	②	『地域連携の理解』	日本社会事業大学
大谷 佳子	①②	『OJTにおける指導の実際』	昭和大学保健医療学部
スタートコム (藤本・古谷)	①②	『DC ネットの理解』	スタートコム (藤本・古谷)
中島 紀恵子	①②	『認知症介護専門職に求められる力量とその評価』	元看護教育研究センター
高橋 正彦	①②	ナイトセミナー	医療法人三星会大倉山 記念病院
川嶋 豊輝	①	「認知症介護指導者の活動の実際」	(株)パーソン・サポート絆
眞板 むつみ	①	「模擬演習 (マイクロティーチング)」	社会福祉法人琢心会 特別養護老人ホーム 辰巳萬緑苑
松井 泰俊	①	「認知症介護における研修カリキュラム構築の実際」	特別養護老人ホーム 明風園
小林 良	①	「認知症介護における研修カリキュラム構築の実際」	(有)まごころグループホーム ほたるの里
井戸 和宏	①	7/29.30.31 認知症介護実践研究の方法 『職場研修の企画・立案』 8/18.19 職場研修ラウンド(4名) 9/2 職場研修報告会	IDOさがみ福祉相談事務所
森 俊輔	①	being 事務局 「ネットワーキングについて」	(有)RAIMU
石渡 康子	②	「認知症介護指導者の活動の実際」	医療法人良仁会 グループホームかりーの
日向 雅史	②	「模擬演習 (マイクロティーチング)」	オリックスリビング(株)
中園 正志	②		(株)叶夢
山岸 泉	②	「認知症介護における研修カリキュラム構築の実際」	社会福祉法人 吉田福祉会
溝口 道昭	②	「認知症介護における研修カリキュラム構築の実際」	社会福祉法人 済昭園
三田 貴弘	②	「ネットワーキングについて」	ケアホーム足立開設準備室

図表 3 2013 年度 認知症介護指導者養成研修カリキュラムの構造

教科	単元
認知症介護研修総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開講式 0.5h</li> <li>・ 研修オリエンテーション（含事前課題受付） 1h</li> <li>・ 倫理と認知症介護 1h20m</li> <li>・ チームアプローチ&amp;リーダーシップ演習 4h</li> <li>・ おとなの学びが実るために 4h</li> <li>・ 認知症介護理念の重要性の理解と展開方法 2h40m</li> <li>・ 認知症介護指導者の役割の理解 1h20m</li> <li>・ DCnet の理解 1h20m</li> <li>・ 研修の自己課題の設定および面接 2h40m</li> <li>・ 認知症介護に関連する法制度の理解 1h20m</li> <li>・ 認知症介護指導者の活動の実際 1h20m</li> <li>・ 認知症高齢者が安心できる環境づくり 1h20m</li> <li>・ 認知症医療の最新情報 1h20m</li> <li>・ 研修成果の評価 ①②③ 8h</li> <li>・ 前期研修のまとめ 1h20</li> <li>・ 認知症介護指導者研修のまとめ 1h20m</li> <li>・ 一日のレビュー 6h50m</li> <li>・ 修了式 0.5h</li> </ul>
人材育成と教育実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症介護における人材育成の方向性 2h40m</li> <li>・ 認知症介護実践の振り返り① 3h20m</li> <li>・ 認知症介護実践の振り返り② 4h</li> <li>・ 認知症介護実践の振り返り③ 4h</li> <li>・ OJT における指導の実際 6h40m</li> <li>・ 認知症介護現場に響く授業の練り上げ方 1h20m</li> <li>・ 演習企画書の作成について 1h20m</li> <li>・ 演習企画書の作成 16h</li> <li>・ 模擬演習 5h20m</li> <li>・ 演習企画書の評価・修正について 1h20m</li> <li>・ 認知症介護における研修カリキュラム構築の考え方 1h20m</li> <li>・ 認知症介護における研修カリキュラム構築の実際 10h40m</li> <li>・ 認知症介護における研修カリキュラムの評価 1h20m</li> </ul>
地域ケアの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域における高齢者虐待防止と権利擁護 2h40m</li> <li>・ 地域支援体制構築等推進事業の連携の実際 1h20m</li> <li>・ 地域連携の理解 2h40m</li> <li>・ 地域・介護現場における課題解決の実践                （施設実習オリエンテーション①②） 4h                （施設実習）実習施設における日勤時間帯                （施設理解と自己の課題） 1h20m                （実習のまとめ座談会） 2h40m</li> <li>・ 相談と支援のためのコミュニケーション 6h40m</li> </ul>
課題解決の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症介護実践研究の方法 1h20m</li> <li>・ 職場研修の企画・立案（講義） 1h20m</li> <li>・ 職場研修の企画・立案（演習） 12h</li> <li>・ 職場研修 4w</li> <li>・ 職場研修成果報告・討議 8h</li> </ul>

### 1) 2013 年度カリキュラム概要

2013 年度の研修カリキュラムの大きな変更としては、模擬演習・職場研修・他施設実習において、4 段階の評価尺度を用いた通知による相互評価を導入したことが挙げられる。

これによって、指導者養成研修の評価体系は、図表 4 のような枠組みとなった。5 問テストは図表 5 に示したとおり、合計 13 科目で実施した。その結果、平均値が 65 点満点中、57.2 点（得点率 88.0%）であった。受講者のうち最も低かった者でも約 70% の得点率であり、各研修生が基本的な知識を理解した上で研修を修了していることが確認された。また、修了考査の一つとして、最終レポートを位置づけ記入及び提出を求めた。すべての研修生がレポートを記入・提出し修了と認められた。

図表 4 東京センターにおける指導者養成研修の評価体系

評価内容	評価の名称	評価方法	評価時期
学習成果の評価	単元のレビュー	受講者の自己評価	授業の直後
	5 問テスト（知識科目）	テスト	授業の直後
	認知症ケア能力自己評価尺度	受講前後の自己評価	受講前と修了直後
カリキュラム構成の評価	カリキュラム評価	受講者による評価	修了時
	単元のレビュー	受講者による評価	授業の直後
目標達成度の評価	最終レポート	レポートによる評価	修了時
	面接	受講者とスタッフの面接	定期的に 4 回
重要科目の評価	模擬演習の評価	受講者同士の評価（数値及び文書による）	受講時
	職場研修の評価	受講者同士の評価（数値及び文書による）	成果報告時
	他施設実習の評価	実習担当者による評価（数値及び文書による）	実習直後及び 1 か月後

図表 5 考査結果概要

	N=45	
	点数	(%)
平均値	57.2	88.0
最大値	64.0	98.5
最小値	46.5	71.5

#### ■認知症介護研修総論

認知症介護の理念の展開方法を検討するための「認知症介護の理念の重要性の理解と展開方法」について、昨年度同様利用者本位の理念実現のためのツールとして開発したひもときシートとその考え方について、講義・演習により深める内容とした。また、受講者と面接により研修の学習成果の振り返りを行う「研修成果の評価③」について、最終レポートをもとにした面接を行うこととした。

## ■人材育成と教育実践

研修のカリキュラム作成能力の育成及び授業の企画力と企画した授業の展開能力の養成をねらう本教科では、昨年度同様グループワークにより実践研修のカリキュラム構築を行い、研修企画者としての能力養成を図り、実際に演習を企画し、それを模擬的に実演するという方法で能力養成を図った。

## ■地域ケアの実践

地域における指導者としての人材育成能力の向上を図る本教科では、これまでどおり「地域連携の理解」という単元において、地域をどのように理解し、どのように地域のニーズをくみ取って認知症者の支援を展開するかについて、講義及び演習を実施した。また、「地域・介護現場における課題解決の実践」として他施設実習を行った。本年度も、個人の課題解決力の向上を図るため、実習施設に対し個人で課題解決の方法の提案をすることとした。

## ■課題解決の実践

認知症介護に関連する課題解決能力の向上を図る本教科では、「職場研修」を実施した。「職場研修」では、自施設・事業所の認知症介護の質向上のための研修、または研修以外の取り組みを行い、その取り組みの成果を評価し報告することにより、課題解決能力の向上を目指した。

## 2) 2013年度のカリキュラムの評価

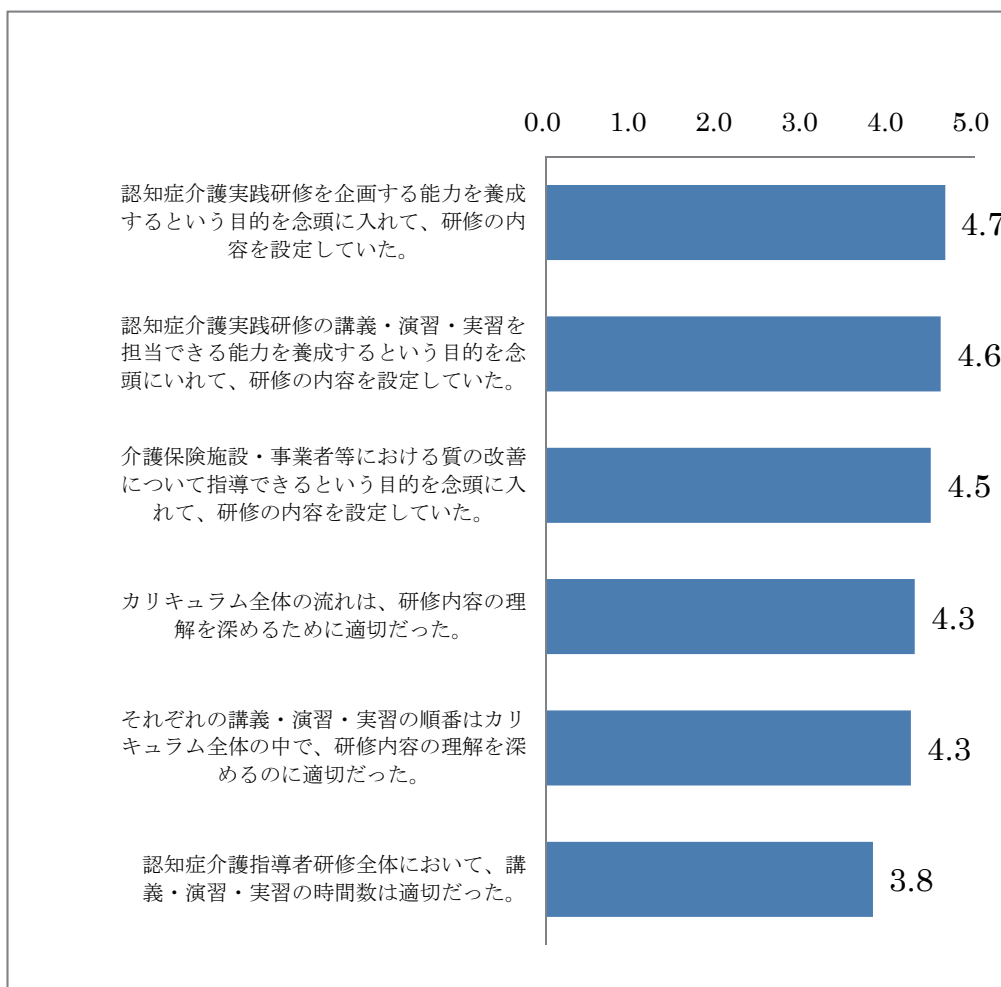
2013年度の研修生全員が研修終了時にカリキュラム評価を行った。評価は、「企画能力育成」「指導能力育成」「スーパーバイズ能力養成」「カリキュラム構成」「カリキュラム順序性」「時間配分」の項目について研修生が5件法によって評価するという方法を用い、その平均点を算出した。その結果、「企画能力育成」で4.7点、「指導能力育成」で4.6点など、6項目中5項目で平均点4.0点以上の評価が示された。研修の時間配分については、3.8点と他の項目に比べ評価が低かった。





II  
研修活動

図表6 2013年度認知症介護指導者養成研修カリキュラム評価（平均値） n=45



## 2) 認知症介護指導者フォローアップ研修

認知症介護指導者フォローアップ研修は 2004 年度の本格実施から 9 年目を迎えた。フォローアップ研修については、第 1 回目の受講希望者が少なかったため、回数を 1 回減じ年 1 回で実施した。16 地域より、合計 23 名の指導者がフォローアップ研修に参加した。参加者の名簿を図表 1 に示した。

図表 1 2013 年度認知症介護指導者フォローアップ研修受講者名簿

県名	氏名	所属
茨城県	田中 良和	社会福祉法人泰仁会 特別養護老人ホーム やさと
栃木県	庄司 康善	医療法人渡部医院 グループホーム 和
群馬県	井上 謙一	NPO 法人じゃんけんぼん 小規模多機能の家 じゃんけんぼん 国府
	松井 勝	社会福祉法人平成会 すみれ荘デイサービスセンター
東京都	鈴木 恵介	有料老人ホーム(株)シルバービレッジ シルバービレッジ八王子
	井上 信太郎	営利法人(有)心のひろば ここひろ青梅
神奈川県	藤原 ヨシ子	横浜市 神奈川福祉保険センター
	鈴木 健之	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団 横須賀老人ホーム
福岡県	大野 哲也	有限会社(有)サポートハウス グループホーム いこいの家
長崎県	田中 大輔	医療法人秋桜会 コスモスガーデン・こすもす
	林田 寛之	医療法人重眞会 通所介護 ひかり
熊本県	齊藤 江美	社会福祉法人広友会 特別養護老人ホーム あさひが丘荘
大分県	平ヶ倉 文雄	有限会社(有) 四季彩 デイサービスセンター かざぐるま
	衛藤 政子	社会福祉法人大分市社会福祉協議会 大分市老人デイサービスセンター さざんか
宮崎県	奈須 康宏	医療法人向洋会 ラポール向洋
鹿児島県	田中 穂積	営利法人(有)いきいきサポート グループホーム いきいき館
沖縄県	嘉陽田かおり	営利法人(有) くりえ 小規模多機能ホーム ゆい
	友寄 利津子	特定非営利活動法人ライフサポートてだこ
横浜市	菊地 昭市	社会福祉法人誠幸会 グループホーム 泉の郷 川和
	梶原 千津子	一般社団法人認知症高齢者研究所 居宅介護支援センターケア・コンフォート
北九州市	城田 浩太郎	株式会社ケアリング かすがの杜
福岡市	川邊 隆二	学校法人 伊東文化学園 福岡介護福祉専門学校
熊本市	松永 佳子	社会福祉法人リデルライトホーム コーカリ苑デイ・サービスセンター

### 1) フォローアップ研修カリキュラム

2013年度フォローアップ研修のカリキュラムは、図表2に示したとおりである。このカリキュラムは厚生労働省の標準的カリキュラムすなわち、

- ・認知症の人の望む暮らしの継続を徹底的に支援する実践者の育成をねらいとしている新標準的カリキュラムを展開していくための最新知識
- ・認知症介護における人材育成のための方法
- ・認知症介護における課題解決の具体的方法
- ・認知症介護研修における効果的な授業の企画・運営のあり方
- ・研修の教育評価

に沿ったものである。

#### ■「若年性認知症者の医学的理解」及び「若年性認知症者の理解と支援」

若年性認知症者のケアについては、問題が複雑化するケースが多いがこれまで実践者等養成事業のカリキュラムに位置付けられてこなかった経緯があった。そのため「認知症の人の望む暮らしの継続を徹底的に支援する実践者の育成をねらいとしている新標準的カリキュラムを展開していくための最新知識」を習得することをねらいとして、昨年度より「若年性認知症者の医学的理解」及び「若年性認知症者の理解と支援」を位置づけた。本年度も同様に研修を実施した。

#### ■カリキュラムの共有と課題

また、「認知症介護研修における効果的な授業の企画・運営のあり方」の一環として実践研修のカリキュラム共有を行う単元を実施した。

#### ■授業の検討

さらに、これまで同様、参加者全員の担当する授業の振り返りを行うことで、学びの平等性を担保することをねらい、受講者が持ち寄った各自の担当する授業について、プレゼンテーションしより効果的な授業にするためのディスカッションを行う、グループワークを実施した。

#### ■指導者とセンターとの協働の方向性

また、フォローアップ研修受講者の希望に3センターの研究や事業について理解を深めたいという希望があったことから、「指導者とセンターとの協働の方向性」と題し、センターの活動状況を報告するとともに、今度の協働にあり方についてディスカッションを行う場を設けた。

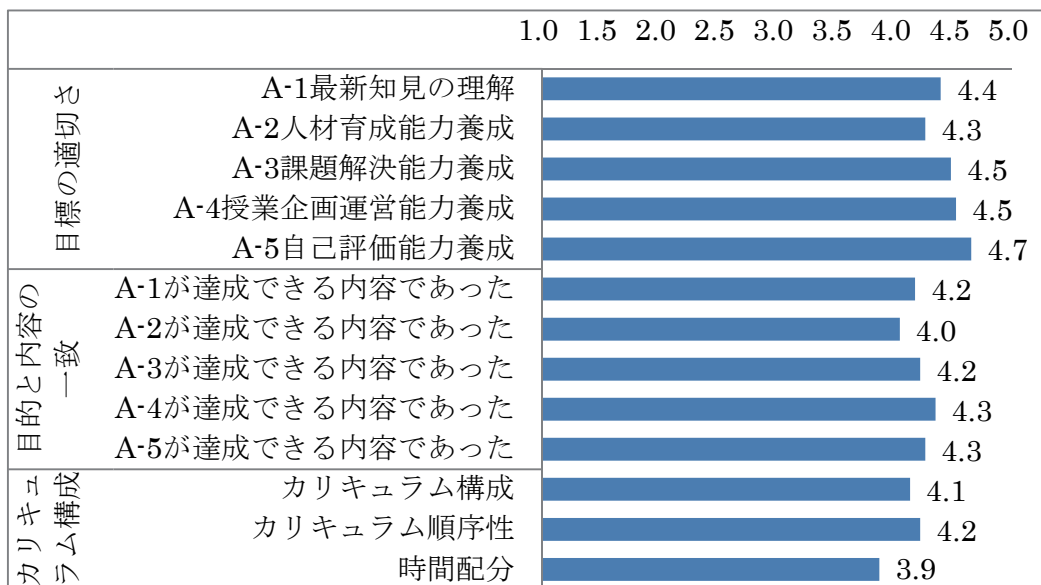
図表 2 2013 年度認知症介護指導者フォローアップ研修カリキュラム

日付	単元名	時間	担当
2/3 (月)	開講式	10:00~10:30	
	オリエンテーション	10:30~10:50	センタースタッフ
	1 最新の認知症介護知識 『認知症介護の現状と今後の方向性』	11:00~12:20	センター 本間 昭
	1 最新の認知症介護知識 『認知症の人のための生活環境』	13:20~14:40	センター 児玉桂子
	4 認知症介護における効果的な授業開発 『研究授業』	14:50~16:10	センター
		16:20~17:40	谷規久子・中村考一・飯田勤
	1日のレビュー	17:40~18:00	センタースタッフ
情報交換会	18:00~19:00		
2/4 (火)	本日の研修のねらい, 諸連絡	9:30~9:40	
	3 認知症介護における改題解決の具体的方法 『ひもときシートの活用と展開』	9:40~11:00	社会福祉法人 恵仁福祉協会
		11:10~12:30	アザレアンさなだ 宮島 渡
	2 認知症介護における人材育成方法 『認知症介護における人材育成の実際』	13:30~14:50	日本大学 内藤佳津雄 センター
		15:00~16:20	谷規久子・中村考一・飯田勤 認知症介護指導者 坂上泰清
	3 認知症介護における課題解決の具体的方法 『認知症介護指導者としての実践の振り返り』	16:30~17:50	センター 谷規久子・中村考一・飯田勤
1日のレビュー	17:50~18:00		
2/5 (水)	本日の研修のねらい, 諸連絡	9:30~9:40	センター 谷規久子・中村考一・飯田勤
	4 認知症介護における効果的な授業開発 『認知症介護実践研修のカリキュラムの共有と課題』	9:40~11:00	センター
		11:10~14:50	谷規久子・中村考一・飯田勤
	1 最新の認知症介護知識 『若年性認知症者の医学的理解』	15:00~16:00	センター 須貝佑一
	1 最新の認知症介護知識 『若年性認知症者の理解と支援』	16:10~17:30	認知症介護指導者 西村哲夫
1日のレビュー	17:40~18:00		
2/6 (木)	本日の研修のねらい, 諸連絡	9:30~9:40	センター 谷規久子・中村考一・飯田勤
	1 最新の認知症介護知識 『認知症介護指導者とセンターとの連携と協働』	9:40~11:00	センター 谷規久子・中村考一・飯田勤
	3 認知症介護における課題解決の具体的方法 『地域連携のあり方』	11:10~12:30	センター 永田久美子
	4 認知症介護における効果的な授業開発 『授業の検討』	13:30~17:50	センター 谷規久子・中村考一・飯田勤
	1日のレビュー	17:50~18:00	
2/7 (金)	本日の研修のねらい, 諸連絡	9:30~9:40	センター 谷規久子・中村考一・飯田勤
	3 認知症介護における課題解決の具体的方法 『認知症介護における授業評価のあり方』	9:40~11:00	センター
		11:10~12:30	センター 谷規久子
	3 認知症介護における課題解決の具体的方法 『認知症介護指導者としての活動の方向性』	13:30~15:10	センター 谷規久子・中村考一・飯田勤
	1日のレビュー	15:20~15:50	
	修了式	15:50~16:30	センタースタッフ

## 2) フォローアップ研修の評価

2013年度の研修生全員が研修修了時にカリキュラム評価を行った。評価は、「目的の適切さ」「目的と内容の一致」「カリキュラム構成」などの項目について研修生が5件法によって評価するという方法を用い、その平均点を算出した。その結果、時間配分以外のすべての項目において、平均値で4点以上の評価を得ることができた。

図表3 カリキュラム評価の結果（平均値）



### 3) 認知症地域支援推進員研修

#### 1. 認知症地域支援推進員研修

##### 1) 研修の目的

認知症の人ができる限り住み慣れた地域で暮らしていくことができるような支援体制構築をめざし、2011年度より「市町村認知症施策総合推進事業」が開始され、同事業において認知症地域支援推進員（以下、「推進員」という）が配置されている。推進員は各市町村において医療機関・介護サービスや地域の支援機関をつなぐコーディネーターとしての役割を担っている。推進員の育成については、2013年6月に「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」において、当面5年間で700名という数値目標が示され、さらなる配置と育成が求められている。本研修は、市町村認知症施策総合推進事業実施要綱に基づく「認知症地域支援推進員等設置促進事業」を実施する市町村に配置された（若しくは配置予定）認知症地域支援推進員が、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関をつなぐコーディネーターとしての役割を担う知識・技術を習得することを目的に実施するものである。

##### 2) 研修の構造と修了者数

2013年度は、5回の研修を実施し、330名が修了した。各研修の開催場所と修了者数の一覧は図表1のとおりであり、研修カリキュラムは図表2のような構造で構成した。また、図表3に、各回の担当講師を示した。

図表1 2013年度各研修開催場所と修了者一覧

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
開催期間	2013年 9/19～21	2013年 10/3～5	2013年 10/31～11/2	2013年 12/16～18	2014年 1/16～18
開催地	福岡	北海道	仙台	東京	大阪
修了者数	31名	11名	62名	123名	103名

図表2 2013年度 認知症地域支援推進員研修カリキュラム

認知症地域支援推進員研修	I. 認知症地域支援推進員研修 基礎編（総論）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症施策の方向性について</li> <li>●地域における医療と介護の連携のあり方</li> <li>●認知症地域資源連携・体制づくり</li> <li>●認知症地域支援推進員の役割-1</li> </ul>
	II. 認知症地域支援推進員研修 実践編-1（各論）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症地域支援推進員に必要なコーディネーション・ネットワーク・ネットワーキング</li> <li>●認知症地域支援推進員に必要な認知症ケアにおける倫理</li> <li>●認知症介護家族への支援の実際と今後の方向性</li> <li>●若年性認知症の支援体制</li> </ul>
	III. 認知症地域支援推進員研修 実践編-2（各論）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症地域支援推進員活動の実際</li> <li>●地域における医療と介護の連携の実際</li> <li>●事例検討会（地域ケア会議等）のすすめ方</li> <li>●研修企画のすすめ方</li> <li>●認知症地域支援推進員の役割-2(まとめ)</li> </ul>

II  
研修活動

図表3 2013年度認知症地域支援推進員研修担当講師一覧

単元名	担当回	氏名	所属	
認知症対策総合支援事業について	第1回 ～第5回	厚生労働省	厚生労働省 老健局 高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室	
地域における医療と介護の連携のあり方	第1回 ～第5回	本間 昭	社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修東京センター	
認知症地域支援推進員に必要な 認知症ケアにおける倫理	第1回 ～第5回	池田 恵利子	公益社団法人 あい権利擁護支援ネット	
認知症地域資源連携・体制づくり	第1回 ～第5回	永田 久美子	社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修東京センター	
認知症地域支援推進員に必要な コーディネーション・ネットワーク・ネットワーク	第1回 ～第5回	青山登志夫	特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所	
若年性認知症の支援体制について	第1回 ～第5回	小長谷陽子	社会福祉法人 仁至会 認知症介護研究・研修大府センター	
介護家族支援への支援の実際と 今後の方向性	第1回 ～第5回	矢吹知之	社会福祉法人 東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター	
事例検討会のすすめ方	第1回	松永美根子	医療法人社団 孔子会 介護老人福祉施設 孔子の里	
	第1回	渡辺 弘子	熊本県菊池市役所 高齢支援課	
	第2回 ～第5回	谷 規久子	社会福祉法人 浴風会 認知症介護研究・研修東京センター	
地域における医療と介護の連携(ナイトセミナー)	第1回	曾山 直宏	医療法人 信岡会 菊池中央病院	
	第1回	高宮 邦泰	医療法人社団 孔子会 介護老人福祉施設 孔子の里	
	第2回	伊古田 俊夫	勤医協 中央病院	
	第2回	大辻 誠司	砂川市立病院 認知症疾患医療センター	
	第2回	高橋 聡	砂川市地域包括支援センター	
	第3回	石井 洋	医療法人 仁泉会 川崎こころ病院	
	第3回	菊池 明子	川崎町保健福祉課 川崎町地域包括支援センター	
	第3回	村上 美紀子	川崎町保健福祉課 川崎町地域包括支援センター	
	第4回	高橋 正彦	医療法人三星会 大倉山記念病院	
	第4回	樋口 雅人	梅町地域ケアプラザ地域包括支援センター	
	第4回	大塚 亮	ゴールドケアサービス	
	第4回	牧野 さくら	医療法人福医会デイサービスセンター オケン	
	第4回	守屋 京子	豊島区 高齢福祉課	
	第5回	森本 一成	特定医療法人大阪精神医学研究所新阿武山病院 認知症疾患医療センター	
	第5回	野角 理絵	社会医療法人愛仁会 高槻市高槻北 地域包括支援センター	
	認知症地域支援推進員活動の実際	第1回	岩本 節子	諫早市役所 高齢介護課
		第1回	深堀 優	長崎市緑が丘地域包括支援センター
第2回		桃井 直樹	苫小牧市南地域包括支援センター	
第2回		西島 智恵	登別市地域包括支援センター「けいあい」	
第2回		多田 摩由美	釧路市中部北地域包括支援センター	
第3回		菅 明美	湯沢市地域包括支援センター	
第3回		千田 智美	奥州市健康福祉部長寿社会課 奥州市地域包括支援センター	
第4回		篠原 柳子	相模原市 健康福祉局保険高齢部 高齢者支援課介護予防班	
第4回		守屋 京子	豊島区 高齢福祉課	
第5回		金子 ちあき	丹波市福祉部介護保険課介護予防係 丹波市高齢者あんしんセンター	
第5回	石松 友樹	社会福祉法人日向市社会福祉協議会 日向市中地域包括支援センター		

### 3) 研修の評価

研修の評価は、授業ごとに行うレビュー評価と研修終了時に行うカリキュラム評価票を用いて行った。レビュー評価では、「集中できたか」「興味関心が持てたか」「主体性を発揮できたか」「自己の知識を活用できたか」「視野が広がったか」「学習意欲が向上したか」「ねらいが達成できたか」という観点について、あてはまる：5点～あてはまらない：1点までの5段階の尺度で自己評価を求めた。ほとんどの科目で各評価項目とも平均値が4点以上となり、高い評価が得られた。特に「地域における医療と介護の連携の実際」「認知症地域支援推進員の役割-2」「認知症地域支援推進員の活動の実際」では、すべての回のすべての項目で平均値が4点以上の評価を得ることができた。

カリキュラム評価では、各科目の目的と内容の一致度について尋ねたほか、日数や時間配分について尋ねた。また、研修に対する意見・要望を自由記述で求めた。科目と内容の一致の評価では、すべての科目で目的と内容が「一致していた」「どちらかという一致していた」と回答した者が80%を超えていた。研修期間について尋ねたところ、約50%の者がちょうどよかったと回答した。長かったと回答した者が30%であった。短かったと回答した者より長かったと回答した者の方が多かった。自由記述では、主な意見として以下のような記述が得られた。

- ・認知症地域支援推進員として、活動していくことの大切さと大変さが良く理解できた。
- ・認知症に対する知識を持っているという前提などでしょうが、講義の中に認知症に対するものもあった方がよい。
- ・もう少しグループワークがあっても良かった。
- ・2日目のナイトセミナーは、やはり辛いものがあった。
- ・フォローアップ研修は東京だけでなく、地方でも開催して欲しい。
- ・この3日間の研修だけでは推進員として活動していくのは不安が大きい。
- ・内容の濃い研修であり、3日間では詰め込みすぎるとも感じた。
- ・研修は行政と包括ペアにすると良かった。
- ・認知症地域支援推進員として前年度研修を受けられた先輩方からの報告は、これからの推進員としての自分に心強いものとなった。



#### 4) 認知症地域支援推進員フォローアップ研修

##### 1) 研修の目的

市町村において認知症地域支援推進員として活動している者に対し、地域の実情を踏まえた認知症地域支援体制の構築を図れるように、より実践的な知識および技術を習得することを目的に認知症地域支援推進員フォローアップ研修を昨年度のより2回増やし、合計で3回実施した。

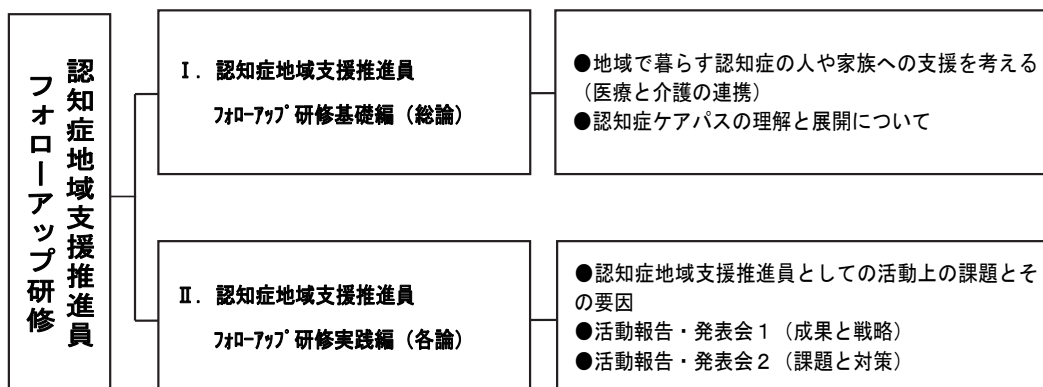
##### 2) 研修の日程及び修了者数

日程及び修了者数は図表1のとおりであった。また、研修の構造は図表2のように構成した。

図表1 研修の日程と修了者数

	第1回	第2回	第3回
開催期間	2013年 11月11日(月) ～12日(火)	2013年 12月19日(木) ～20日(金)	2014年 1月30日(木) ～31日(金)
修了者数	29名	47名	48名

図表2 2013年度 認知症地域支援推進員フォローアップ研修の構造



##### 3) 研修の評価

研修の評価は、授業ごとに行うレビュー評価と研修終了時に行うプログラム評価票を用いて行った。レビュー評価では、「集中できたか」「興味関心が持てたか」「主体性を発揮できたか」「自己の知識を活用できたか」「視野が広がったか」「学習意欲が向上したか」「ねらいが達成できたか」という観点について、あてはまる:5点～あてはまらない:1点までの5段階の尺度で自己評価を求めた。ほとんどの科目で各評価項目とも平均値が4点以上となり、高い評価が得られた。特に参加した推進員個々の活動事例を具体的に共有する、「活動報告・発表会2(課題と対策)」では、すべての評価項目で4.5点以上の評価が得られ、フォローアップ研修に参加した推進員が、他の推進員の具体的実践事例についての情報を求めていることが改めて確認された形となった。なお、活動成果の発表については、2,3回目は「活動上の課題とその要因」と「認知症ケアパスの展開と理解」それぞれに変更した。

プログラム評価では、各科目の目的と内容の一致度について尋ねたほか、日数や時間配分について尋ねた。また、研修に対する意見・要望を自由記述で求めた。科目と内容の一致の評価では、推進員研修同様、すべての科目で目的と内容が「一致していた」「どちらかという一致していた」と回答した者が80%を超えていた。研修期間については、ちょうどよかったと回答した者が74.2%であった。短かったと回答した者が20.2%であり、長かったと回答した者はほとんどいなかった。また、フォローアップ研修への期待と内容の一致について尋ねたところ、9割以上のものが期待通りであった」または「どちらかという期待通りであった」と回答した。フォローアップ研修に対する意見・要望について自由記述形式で尋ねたところ、主な回答として、以下のような回答が得られた。

- ・大変勉強になりました。様々な考え方や工夫、苦勞を聞けて良かった。
- ・活動発表会のようなものを行って欲しい。
- ・推進員の役割の再認識ができて良かった。
- ・参加者がもっと交流できると良かった。
- ・東京ではなく、地方での開催を希望します。
- ・国の動きや認知症に関する最新情報があれば聞きたかった。
- ・いろいろな人たちとの交流がとても楽しく、勉強になった。
- ・情報交換ができ、また頑張ろうという気持ちにつながった。
- ・フォローアップ研修は必須とした方がよい。
- ・今回のように課題を分けて交換してグループワークをする形式はよかったが、もう少し時間があればよかった。

#### 4) まとめ

認知症地域推進員研修、認知症地域推進員フォローアップ研修とも、レビューやカリキュラム評価からは、目的と内容の一致した満足度の高い結果であったことが確認された。今後施策の進行とともに推進員の役割や位置づけがさらに重要になってくることが予測される。今後も制度の展開に合わせながら、効果的な研修の構築・実施を図りたい。

## 5) ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修

### ■目的

本事業は、「ひもときシート」の普及啓発のために、ひもときシートを学ぶための「実践者コース」、ひもときシートについて講師を担当する能力を養成する「講師養成コース」の2つの研修を実施することを目的とする。

### ■事業概要

実践者コース（1日）を年3回、講師養成コース（2日）を年2回実施した。講師養成コースでは40名、実践者コースでは129名が研修を受講した。受講者に対して、アンケートを実施し、研修の評価とした。講師養成コースについては、年3回の予定を年2回に変更して実施した。なお研修プログラムは、表1、表2のとおりとした。

### ■結果及び考察

アンケートでは設問ごとに0点、25点、50点、75点、100点の尺度に回答を求めたが、これらを0～4点に換算し平均値を求めた（表3、表4）。実践者コースではひもときシートの使い方の説明方法の見直し、講師養成コースでは、ファシリテートの指導方法のあり方が課題となる。

表1 実践者コースのプログラム

時 間	プ ロ グ ラ ム	
10:00～10:05	開 会	
10:05～10:20	認知症ケア高度化推進事業 概要報告	
10:20～11:00	ひもときシートについて	
11:00～12:00	ひもときシートガイドライン・テキストの活用について	
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～15:50	グループ演習	
	◆13:00～13:10 (10分)	①自己紹介②演習の流れの説明
	◆13:10～13:20 (10分)	事例の読み込み
	◆13:20～13:30 (10分)	ひもときシートA～C記入
	◆13:30～13:40 (10分)	A～C記入後、話し合い
	◆13:40～14:15 (35分)	思考展開エリア(8つの視点)記入
	◆14:25～14:45 (20分)	思考展開エリア記入後、話し合い
	◆14:45～15:05 (20分)	ひもときシートD～F記入
	◆15:05～15:20 (15分)	D～F記入後、話し合い
◆15:20～15:50 (30分)	班での意見とりまとめ	
15:50～16:20	各班意見発表 (30分)	
16:20～16:30	総括	

表2 講師養成コースプログラム

	時 間	内 容
初 日	10：00～10：10	開会・オリエンテーション
	10：10～10：40	ひもときシート作成の経緯
	10：40～12：00	講義・演習実施のポイント
	12：00～13：00	昼食・休憩
	13：00～14：20	講義・演習実施のポイント
	14：30～16：40	ファシリテートのポイント
	16：40～17：20	ひもときねっとの活用と研修実施の手続き
2 日目	10：00～10：05	開 会
	10：05～10：10	認知症ケア高度化推進事業 経過報告
	10：10～11：30	ひもときシートについて（講義聴講）
	11：40～12：30	ガイドライン・実践者テキストについて（講義聴講）
	12：30～13：30	昼食・休憩
	13：30～15：50	グループ演習 ファシリテート実践
	15：50～16：30	意見交換・総括
	16：35～17：10	講義・ファシリテートに関するディグリーフィング
	17：10～17：20	事後課題と登録について

表3 実践者コースの評価

評価項目	平均値
ひもときシートの使い方は理解出来ましたか	2.9
ガイドラインとテキストの活用は理解出来ましたか？	2.8
思考展開シートは理解出来ましたか？	3.3
ファシリテーターは効果的な助言をされていましたか	3.4
ひもときシートを使って、新たな気づきや課題解決のヒントを得られましたか	3.5
ひもときシートを、実際の職場で使ってみたいと思いますか	3.8
きょうの研修に参加してよかったと思いますか	3.8

表4 講師養成コースの評価

評価項目	平均値
講義・演習のポイントは理解出来ましたか？	3.0
ファシリテートのポイントは理解出来ましたか	2.8
1日目の研修を参考に効果的なファシリテートが出来ましたか	2.2
2日目午後の研修時の講師からの指導は参考になりましたか	3.4
新たな気づきや課題解決のヒントを得られるようなグループ討議が出来ましたか	3.0
今後ひもときシートを、研修会等を活用して広めていきたいと思いますか	3.6
きょうの研修に参加してよかったと思いますか	3.8

白

Ⅲ

その他の事業

## 1. 2013年度東京センター研究成果報告会 (認知症ケアセミナー「地域総ぐるみで考える認知症ケア」)

東京センターにおける2013年度の研究成果報告会を、杉並区、杉並区社会福祉協議会、杉並区医師会、杉並区居宅介護支援事業者協議会、杉並介護者応援団、日本認知症ケア学会の後援のもと、2013年7月8日(月)に東京センター大会議室で開催した。

内容は、当センターの本間昭センター長による「認知症の人のための地域包括ケアシステムの構築に向けて」、社会福祉法人東京聖新会特別養護老人ホームフローラ田無の尾林和子施設長による「認知症の人が地域で暮らせるアプローチとは」の2つの基調講演を行い、休憩を挟んだのちに専門分科会として①「認知症の人の症状と地域社会」、②「一人暮らしで認知症になったら・・・」、③「終末期の人を自宅で看取る」の3つのテーマで実施した。

当日は198名の参加があり、参加者の満足度は高く、とくに分科会では自身の体験や課題、疑問等について話し合うことができたことと好評であった。

### プログラム

時間	内容
1:00~1:10	開演の挨拶
1:10~1:35	基調講演1「認知症の人のための地域包括ケアシステムの構築に向けて」 本間 昭 認知症介護研究・研修東京センター センター長
1:35~2:15	基調講演2「認知症の人のための地域包括ケアシステムの構築に向けて」 尾林 和子 社会福祉法人聖新会特別養護老人ホームフローラ田無 施設長
2:15~2:30	休憩(15分)
2:30~4:00	分科会 ①「認知症の症状と地域社会」 担当：永田 久美子研究副部長，中村 考一研修主幹 ②「一人暮らしで認知症になったら・・・」 担当：児玉 桂子副センター長，飯田 勤研修主幹 ③「終末期の人を自宅で看取る」 担当：須貝 佑一副センター長兼研究部長，谷 規久子研修部長 *所属はすべて認知症介護研究・研修東京センター
4:00~4:30	分科会まとめ
4:30	閉会の挨拶

## 2. 認知症介護研究・研修センター 平成24年度3センター合同研究成果報告会 「認知症の人を地域で支える」

全国に3か所ある認知症介護研究・研修センターの合同研究成果報告会を、日本認知症ケア学会、杉並区、杉並区社会福祉協議会の後援のもと、2013年9月30日（月）にステーションコンファレンス東京サピアホールにて開催した。

各センターの報告者として、認知症介護研究・研修大府センターからは「若年性認知症を地域で支える」と題して小長谷研究部長が、認知症介護研究・研修仙台センターからは「高齢者虐待防止と地域で介護する家族の支援」と題して矢吹主任研修研究員、吉川主任研究員が、当センターからは「生活を地域で支える仕組みをつくる」と題して谷研修部長、永田研究部副部長が発表した。

当日は196名の参加があり、盛会のうちに報告会を終了することができた。

### プログラム

時間（午後）	内 容
1：00～1：20	開演の挨拶
1：20～2：00	「若年性認知症を地域で支える」 認知症介護研究・研修大府センター 研究部長 小長谷 陽子
2：00～2：40	「高齢者虐待防止と地域で介護する家族の支援」 認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員 矢吹 知之 主任研究員 吉川 悠貴
2：40～3：20	「生活を地域で支える仕組みをつくる」 認知症介護研究・研修東京センター 研修部長 谷 規久子 研究部副部長 永田 久美子
3：20～3：40	休憩
3：40～5：00	シンポジウム「認知症の人を地域で支える」 司会：認知症介護研究・研修東京センター 研究部長 須貝 佑一 シンポジスト：研究成果報告者
5：00	閉会の挨拶



Ⅲ  
その他の事業



3 センター合同研究成果報告会

### 3. 2013年度認知症介護実践者等養成事業にかかる都道府県等行政担当者セミナー

#### 1. 目的

認知症介護指導者養成研修，認知症介護実践リーダー研修などの認知症介護実践者等養成事業のあり方や実施状況に関する情報提供及び，各都道府県・政令指定都市の担当者と仙台・東京・大府センターの担当者との間での当該事業に関する意見交換を行うことを目的に標記セミナーを実施した。

#### 2. 日時及び場所

2014年2月24日（月）10：00～16：00 東京センター大会議室

#### 3. プログラム

日 程	プログラム
9:30-10:00	受付
10:00-10:10 開会	開会あいさつ 東京センター センター長 本間 昭 本セミナーの目的説明及びスケジュール説明 東京センター（総合司会）
10:10-10:50 (40分) 基調講演	認知症の基本知識と実践者等養成事業 東京センター センター長 本間 昭
10:50-11:30 (40分)	アンケート結果概要説明 研修主幹 中村 考一
11:30-12:40	休憩
12:40-13:20 (40分) テーマ別討議 1	実践者等養成事業の課題と対策 アンケート結果をふまえて，課題と対策について解説
13:20-13:30	休憩
13:30-15:00 (90分) テーマ別討議 2 質疑 45分	認知症施策推進 5か年計画(オレンジプラン)における指導者の活動について 報告 1 認知症地域支援推進員との協働 報告 2 病院・介護保険施設などでの認知症対応力向上の推進 報告 3 その他の関与
15:00-15:10	休憩
15:10-15:55 (45分) 資料説明	3センター研究報告 仙台センター（虐待，家族支援，災害対策等） 大府センター（若年認知症等） 東京センター（ひもとき，研修評価等）
15:55-16:00	閉会

#### 4. セミナーの結果

セミナーには、36 都県市から 45 名の行政担当者等の参加を得ることができた。セミナーに際し、行政担当者を対象に情報共有のためのアンケート調査を実施した。調査の結果、67 地域中、57 地域（回収率 88.07%）、から調査票を回収することができた。調査においては、実践者等養成事業の実施回数や、修了者数、研修の時間数の他、オレンジプランにおける指導者の役割、指導者の募集方法、研修費用等について回答を得ることができた。また、3 センターの研究報告においては、それぞれのセンターから実践者等養成事業に活かせる研究成果について紹介と説明を行った。アンケートの結果及び討議結果は、当日欠席した各都道府県・指定都市に対しても郵送にて送付した。

## 4. 第6期市町村介護保険事業計画作成にあたっての「認知症ケアパス作成のための手引き」の活用に係る説明会

2013年9月に公表された「認知症ケアパス作成のための手引き」では、「地域の高齢者の状態像の把握」、「認知症の人を支える社会資源の把握」を通じて、認知症の人に必要な支援・サービスを地域に整備するための考え方を示している。本説明会では、この手順で用いる「認知症の人に必要なサービスを整備するための気づきシート（気づきシート）」と「認知症の人を支える社会資源の整理シート（社会資源シート）」のそれぞれの使い方・考え方について、具体例を交えながら説明を行うと同時にグループワークを通じて理解を深めた。

### 第1回

日 時	2013年12月25日（水） 午後1:00～5:00
場 所	認知症介護研究・研修東京センター 大会議室
参加自治体数	52市区町村（オブザーバー参加：10都県）

### 第2回

日 時	2014年1月14日（火） 午後1:00～5:00
場 所	認知症介護研究・研修東京センター 大会議室
参加自治体数	115市区町村（オブザーバー参加：14県）

### 第3回

日 時	2014年1月17日（金） 午後1:00～5:00
場 所	認知症介護研究・研修東京センター 大会議室
参加自治体数	153市区町村（オブザーバー参加：7都道県）

内 容	担 当
「地域包括ケアを実現するための市町村介護保険事業計画と認知症ケアパスの関係」	厚生労働省老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室 岡本 慎係長，吉田 知可担当官
地域に住む高齢者の状態像の把握，地域にある社会資源の把握	認知症介護研究・研修東京センター 進藤 由美研究主幹
気づきシート，社会資源シートを用いて，地域の現状を把握する	認知症介護研究・研修東京センター 進藤 由美研究主幹

白

IV

スタッフ紹介

IV  
スタッフ紹介

凡例

- ①氏名
- ②常勤/非常勤  
役職と仕事の紹介
- ③専門分野
- ④自己紹介
- ⑤2013年度業績
- ⑥e-mailアドレス



- ①**本間 昭** (ほんま あきら)
- ②センター長
- ③老年精神医学
- ④往診を含め、外来を週2日やっている。介護支援専門員をはじめとして様々な職種の人たちと出会い、多職種の関わりがなければかれらの生活を支えることはできないと思うことが多い。改めて認知症のひとたちに対する医療の役割を考えさせられている。

⑤2013年度の業績

【著書】

- ・本間昭（編）：介護福祉士養成テキストブック11巻認知症の理解第2版。ミネルヴァ書房，2013

【論文】

- ・北村伸，中村裕，本間昭，木村紀幸，浅見由美子：「メマンチン塩酸塩（メモリー®）の中等度および高度アルツハイマー型認知症に対する長期投与群ならびに有効性の検討」日老医誌（2014）51: 74-84.

⑥ahomma96@dcnet.gr.jp



- ①**長谷川 和夫** (はせがわ かずお)
- ②名誉センター長（非常勤）
- ⑤2013年度の業績

【著書】

- ・長谷川和夫：よくわかる認知症の教科書，朝日新書 2013.4.30
- ・長谷川和夫：認知症の介護，ぱーそん書房 2013.5.10
- ・長谷川和夫：認知症ケアの作法，ぱーそん書房 2013.6.1

【論文】

- ・長谷川和夫：「認知症診療の原則と課題」診療研究 486, 36-43, 2013.4
- ・長谷川和夫：「認知症の普及・啓発は如何にあるべきか」成人病と生活習慣病 43(7), 879-884, 2013.7
- ・長谷川和夫：「認知症の理解」認知症ケア事例ジャーナル 6(3), 343-344, 2013.12

【口頭発表】

- ・長谷川和夫：「認知症診療の基本課題」第14回日本早期認知症学会大会 特別講演会，浜松市，2013.9.21
- ・長谷川和夫：「認知症の人の理解と治療」第48回日本成人病（生活習慣病）学会 特別講演，東京，2014.1.18
- ・長谷川和夫：「認知症診療の基本課題ーこれまでとこれからー」京滋デメンシアコンgres 2014，京都，2014.1.25



①須貝 佑一 (すがい ゆういち)

②副センター長 (非常勤) : 介護研究部門

③老年精神医学

④研究予算の大幅カットの影響で、10年間継続してきた地域高齢者の生活習慣と認知機能の追跡調査が一時中断しています。反面、煩雑な事業がなかったおかげでこれまで蓄積していたコホートデータを整理することができました。順天堂大学杉山准教授、群馬大学林

教授のご協力で 2013 年度に二本の論文を投稿中です。小生はこの間、浴風会病院の物忘れ外来を担当し、認知症の患者さんを診る仕事が多くなりました。世間で言われているようにこの分野でも医者不足です。外来では認知症を中心とした老年期の精神障害が増えています。東京都の認知症疾患医療センターとしての役割も加わり、仕事量は増えつつあります。介護が必要になって生活介護施設に入所してきた高齢者もほとんどが認知症です。認知症 460 万人時代を実感します。しかも年齢は年ごとに高齢化し、90 歳代の方がたを診る機会が増えました。「早くお迎えにきてほしい」「早くあの世に逝きたい」とおっしゃいます。人が 90 歳、100 歳を生きることとは何かを考えさせられる毎日です。

⑤2013 年度の業績

【解説】

- ・須貝佑一：「高齢者のうつ・せん妄の診療の留意点」診療研究。5-15:486, 2013.4
- ・須貝佑一：「認知症予防ワクチンの開発状況」日本医事新報, 82-83:4649, 2013.6
- ・須貝佑一：「サビない脳をつくる食事術, ベストムック」78-84:, 2013.7
- ・須貝佑一：「認知症予防の考え方」中国新聞, 2013.8
- ・須貝佑一：「笑い認知症予防」農業共済新聞, 2013.8
- ・須貝佑一：「認知症予防チェック」JA 共済雑誌, 2013.9
- ・須貝佑一：「認知症への家族の対応」時事通信社メディカルトリビューン, 2013.9
- ・須貝佑一：「認知症の早期発見と対応」高齢者保健福祉実務辞典, 2013.12

【講演発表】

- ・須貝佑一：「脳を若く保つ」大阪朝日ホール, 2013.4
- ・須貝佑一：「認知症の医学的理解と対応」新宿区役所, 2013.7
- ・須貝佑一：「死ぬまでぼけない頭をつくる」杉並地域大学, 2013.10
- ・須貝佑一：「認知症患者への基本対応」全国腎疾患管理懇話会, 2013.11

⑥ysugai@dcnet.gr.jp



①兎玉 桂子 (こだま けいこ)

②副センター長 (非常勤) : 研修部門

日本社会事業大学大学院及び社会事業研究所特任教授

③認知症ケア環境の実践的研究, 超高齢社会における居住環境の計画と評価

④認知症ケアには、医療・看護・福祉・心理学など多面的アプローチが欠かせませんが、私は施設・住宅などの居住環境面から、認知症

ケアの向上に現場の方々と取り組んでいます。2013年度には、宮崎・千葉・群馬・新潟県において認知症介護指導者等に、認知症介護のための環境支援の講演・研修をしました。特に千葉市では、これまで実践者研修に生活環境が取り上げられていませんでしたが、認



IV  
スタッフ紹介

凡例

- ①氏名
- ②常勤/非常勤  
役職と仕事の紹介
- ③専門分野
- ④自己紹介
- ⑤2013年度業績
- ⑥e-mailアドレス

知症介護指導者の方々に引き継いだことはうれしい成果です。

⑤2013年度の業績

【著書】

- ・児玉桂子：高齢者の住まいと居住支援(内容更新)，社会福祉学双書2012，238-252，全国社会福祉協議会，2014.2
- ・児玉桂子：ケアと居住環境，講座ケア第2巻ケアとコミュニティー福祉・地域・まちづくり，151-178，ミネルヴァ書房，2014.3

【論文】

- ・児玉桂子：「医療・福祉の環境づくりの意味と価値」医療福祉建築，No.181，2-3，日本医療福祉建築協会，2013.10
- ・児玉桂子・大島千帆・鈴木みな子：「PEAPの孝心機能低下への次元を多様な生活の場へ適用する」FJC，Vol.33，8-9，福祉住環境コーディネーター協会，2013.10
- ・児玉桂子：「日本における認知症ケアの動向と居住環境整備」第30回中日工程技術検討会論文集，1-23，台湾内政部建築研究所，2013.11
- ・児玉桂子：「認知症高齢者への施設環境づくり支援プログラムを用いた改善方法と施設環境づくりがもたらす幅広い効果」第30回中日工程技術検討会論文集，24-53，台湾内政部建築研究所，2013.11
- ・児玉桂子・大島千帆・鈴木みな子：「個々のライフスタイルに配慮した環境づくりを多様な生活の場に適用する」FJC，Vol.34，8-9，福祉住環境コーディネーター協会，2014.2

【学会発表等】

- ・中村考一・安藤千晶・飯田勤・谷規久子・児玉桂子他：「平成23年度における認知症介護指導者の活動状況と課題」第14回日本認知症ケア学会，2013.6.2
- ・渡邊浩文・中村考一・永田久美子・大島憲子・児玉桂子他：「地域の認知症の人への支援におけるケアと医療の連携に関する研究—東京都杉並区におけるかかりつけ医と介護支援専門員の連携に関する実態調査—」第14回日本認知症ケア学会，2013.6.2
- ・座長：「教育・研修」第14回日本認知症ケア学会，2013.6.2
- ・児玉桂子・廣瀬圭子・古賀誉章・鈴木真智子・松本望：「認知症高齢者に配慮した施設環境づくりの継続のための職員による相互評価(1)—施設環境づくり支援要素の実施状況に基づく環境づくり実践プロセスの評価の試み」第21回日本介護福祉学会，2013.10.20
- ・鈴木真智子・児玉桂子・廣瀬圭子・古賀誉章・松本望：「認知症高齢者に配慮した施設環境づくりの継続のための職員による相互評価(2)—職員による環境支援や利用者の行動変化に基づく環境づくり実践のアウトカムの評価の試み」第21回日本介護福祉学会，2013.10.20
- ・廣瀬圭子・児玉桂子・鈴木真智子・古賀誉章・松本望：「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり効果的支援要素評価表の作成—プロセス評価のためのモニタリングツールとして」第21回日本介護福祉学会，2013.10.20
- ・児玉桂子・菱沼幹男・大島千帆他：「超高齢団地における安心居住の支援方法に関する実践研究」社会事業研究所研究交流会，2013.10.30
- ・児玉桂子：「高齢者居住環境評価と環境整備」第30回台日工程技術検討会，台湾中国工程師学会・台湾科学技術協会，2013.11.27
- ・座長：日本社会福祉学会2013年度関東支部研究集会，2014.3.1
- ・鈴木真智子・児玉桂子・廣瀬圭子・古賀誉章・松本望：「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム継続のための職員による相互評価の構築」文部科学研究基盤A実践家参画型福祉プログラム評価法研究2013年度研究成果報告会，日本社会事業大学，

2014.3.11

【講演等】

- ・児玉桂子：「認知症高齢者への環境支援—環境を生かしたケアを実践するために—」練馬区社会福祉事業団上石神井特別養護老人ホーム研修会，2013.4.10，東京都
- ・児玉桂子：「日本における高齢者の居住環境」台湾東海大学高齢化プロジェクト，2013.4.17，東京都
- ・児玉桂子：「認知症介護指導者フォローアップ研修：認知症者への環境支援にもとづく認知症介護」認知症介護指導者東京ネットワーク第5回九州大会，2013.5.26，宮崎市
- ・児玉桂子：「人的環境と住環境・地域環境を考える—認知症介護のための環境支援」千葉県認知症介護実践者研修，千葉県高齢者施設協会，2013.6.5/8.8（2回），千葉県
- ・児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・鈴木みな子・大島千帆：「認知症ケアを助ける施設環境づくりフォローアップ研修」練馬介護人材育成・研修センター，練馬区社会福祉事業団，2013.6.19，東京都
- ・児玉桂子：「認知症の人のための生活環境づくり講座（高齢者専門研修）」群馬県介護研修センター，2013.7.30-31（2日間），前橋市
- ・児玉桂子・田美子・趙正祐：「福祉施設のユニバーサルデザイン」韓国福祉環境デザイン研究所，2013.8.19，東京都
- ・児玉桂子：「認知症介護のための環境支援—環境を活かした認知症介護を実践するために—」平成25年度新潟県認知症介護実践者研修（中越地区）総括講座，主催：新潟県・長岡三古老人福祉会，2013.9.27，長岡市
- ・大島千帆・下垣光・児玉桂子：「認知症高齢者への住まいの工夫とその効果」練馬介護人材育成・研修センター，練馬区社会福祉事業団，2013.10.15/10.29（2回），東京都
- ・児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・鈴木みな子・大島千帆：「認知症ケアの向上に向けたケア環境マネジメント研修」練馬介護人材育成・研修センター，練馬区社会福祉事業団，2013.10.23/11.13（2回），東京都
- ・児玉桂子：「認知症介護のための環境支援—環境を活かしたケアを実践するために—」熊本県認知症ケア専門士会研修会，2013.11.2，熊本市
- ・児玉桂子：「環境を活かした認知症ケア—施設環境づくり支援プログラムの活用とその幅広い効果—」浴風会ケアスクール研修会，2013.12.17，東京都
- ・児玉桂子：「基調講演「認知症高齢者の生活環境支援の考え方と方法」」，大阪市立大学大学院看護学研究科講演・シンポジウム，2014.3.8，大阪市

【報告書】

- ・児玉桂子・廣瀬圭子・古賀誉章・鈴木真智子・大島千帆・松本望：平成25年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）「実践家参画型福祉プログラム評価の方法および評価教育法の開発とその有効性の検討」分担報告書「施設環境づくり継続のための職員による相互評価システムの構築—認知症ケアに効果的な施設環境づくり支援プログラムフォローアップ評価報告書」，1-102，日本社会事業大学，2014.3
- ・児玉桂子・菱沼幹男・大島千帆他：平成25年度日本社会事業大学社会事業研究所社会福祉実践研究事業報告書「超高齢団地における安心居住の支援方法に関する実践研究」，1-95，日本社会事業大学社会事業研究所，2014.3

【社会活動】

- ・日本老年社会学会，評議員，査読委員
- ・日本認知症ケア学会，評議員，査読委員
- ・日本建築学会，査読委員，福祉施設小委員会「環境づくり実践WG」

IV  
スタッフ紹介

凡例

- ①氏名
- ②常勤/非常勤  
役職と仕事の紹介
- ③専門分野
- ④自己紹介
- ⑤2013年度業績
- ⑥e-mailアドレス

- ・日本社会福祉学会，査読委員
- ・日本介護福祉学会，査読委員
- ・国土交通省，独立行政法人評価委員会（都市再生機構分科会）委員
- ・独立行政法人日本学術振興会，科学研究費委員会専門委員
- ・東京消防庁，火災予防審議会，人命安全部会，委員
- ・社会福祉法人浴風会，評議員
- ・社会福祉法人マザアス，理事
- ・三井住友海上福祉財団，財団賞選考委員，助成選考委員
- ・北隆館，地域ケアリング編集委員
- ・日本総合研究所，介護サービスの質向上とホスピタリティに関する調査事業（老健事業），委員
- ・日本社会事業大学+都市再生機構，日本社会事業大学共同研究UR滝山団地プロジェクト代表
- ・日本社会事業大学，実践家参画型福祉プログラム評価法研究，認知症高齢者に配慮した環境づくり研究班代表
- ・日本社会事業大学社会事業研究所，指定研究「介護福祉学の構築に関する研究」共同研究者
- ・特別養護老人ホームマザアス東久留米，施設環境づくりアドバイザー
- ・練馬区社会福祉事業団，施設環境づくりアドバイザー
- ・浴風会特別養護老人ホーム南陽園，施設環境づくりおよび研究アドバイザー

⑥k-kodama11@dcnet.gr.jp



①谷 規久子（たに きくこ）

②研修部長

仕事の紹介：認知症地域支援推進員研修・認知症地域支援推進員フォローアップ研修を中心に，認知症介護指導者養成研修，認知症介護指導者フォローアップ研修，ひもとき研修などの研修に携わる。

③認知症ケア，老年看護学

④数々の経験と多くの方々とお知り合いになれたことは私の財産として大切にしながら，今後はしばらく休息をとった後，次の人生へ出発して行きたいと思

います。在職中は公私にわたり格別のご厚情を賜り厚くお礼を申し上げます。

⑤2013年度業績

【著書】

- ・谷規久子，本間昭：PART5 病者と家族を支える社会的支援・地域連携,からだの科学，山田正仁監修，日本評論社，2013.6.
- ・谷規久子：認知症ケアの質を高める丸得アドバイス，認知症ケア最前線，VOL38～43，株式会社 QOL サービス，2013.4.4～2014.3.（隔月）
- ・谷規久子：平成 23 年度認知症地域支援推進員の活動の現状と課題，日本看護科学学会，2013.12.
- ・谷規久子：ステージ別認知症ケアの現状と課題，高齢者安心安全ケア実践と記録，日総研出版，2014.1.

## 【社会活動】

- ・ 栃木県看護協会非常勤講師
- ・ 認知症ケア事例ジャーナル編集委員
- ・ 東京都認知症介護研修カリキュラム等検討委員
- ・ 東京都看護師認知症対応能力向上研修委員
- ・ 東京都看護師認知症対応能力向上研修ワーキング委員

⑥k-tani@dcnet.gr.jp



### ①永田 久美子 (ながた くみこ)

#### ②研究部副部長

#### <仕事の紹介>

- ・ 認知症の本人が、自らの意向や暮らし方、力を保ちながら、住み慣れた地域でよりよく暮らしていくための本人支援、本人ネットワーク支援
- ・ 地域の多資源が本人本位の支援を協働で拡充していくためのセンター方式を活用した地域密着の人材育成・チーム作りの促進
- ・ 認知症の人と家族が地域で暮らし続けるための地域支援体制を自治体単位で構築していく促進

以上についてのアクションリサーチ

#### ③認知症ケア，老年看護学，老年学，町づくり

- ④認知症の発症前後から最期の時まで、本人がよりよく生きていく可能性が大きく広がってきています。分野や立場を超えて、本人がよりよく生きるために共に何ができるか、各地域に根ざしながらの対話と実践、検証の積み重ねが今こそ重要だと思っています。わが地域での取り組みを続けている人たちのネットワーク作りも進めています。

#### ⑤2013年度の業績

##### 【論文】

- ・ 永田久美子：「認知症当事者研究とは何か，超高齢社会の生き方・看護・研究の共創にむけて」看護研究 46(3)，254-262，2013
- ・ 永田久美子：「支援の歴史に学ぼう」NHK社会福祉セミナー第26巻：68-71，22013.8
- ・ 永田久美子：「認知症の基本と生活支援の可能性」NHK社会福祉セミナー第26巻：72-75，22013.8
- ・ 永田久美子：「認知症の「本人の声」に学ぼう」NHK社会福祉セミナー第26巻：76-79，2013.8
- ・ 永田久美子：「生活支援のポイントと実際」NHK社会福祉セミナー第26巻：80-83，22013.8
- ・ 永田久美子：「地域で暮らし続けるための支援」NHK社会福祉セミナー第26巻：84-87，22013.8

##### 【学会発表】

- ・ 永田久美子，小森由美子：「市区町村/地域で認知症ケアの人材・チームを着実に育てていく地域システムの構築にむけて，一センター方式を活用した地域型基礎研修の開催実態と成果・課題一」第14回日本認知症ケア学会，2013.6
- ・ 永田久美子：「パーソンセンタードケアとセンター方式の課題と成果，～認知症と共に

IV  
スタッフ紹介

凡例

- ①氏名
- ②常勤/非常勤  
役職と仕事の紹介
- ③専門分野
- ④自己紹介
- ⑤2013 年度業績
- ⑥e-mailアドレス

生きる人の支援の現状と未来～」第3回日本認知症予防学会学術集会 新潟, 2013.9

【社会活動】

- ・東京都認知症対策推進会議委員
- ・東京都高齢者保健福祉計画作成委員
- ・日本認知症ケア学会理事
- ・全国認知症高齢者グループホーム協会顧問
- ・認知症当事者の会世話人
- ・科学技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター (RISTEX) 「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」領域アドバイザー

⑥knagata@dcnet.gr.jp



①中村 考一 (なかむら こういち)

②研修主幹

③認知症高齢者の生活支援, 認知症介護研修, 認知症カフェ

④主に認知症介護指導者養成研修, ひもとき研修などを担当したほか, 実践者等養成事業の評価指標作成の試みを行っています。

⑤2013 年度の業績

【学会発表】

- ・「平成 23 年度における認知症介護指導者の活動状況と課題」日本認知症ケア学会
- ・‘A Survey on Dementia Care Leaders Trends Who Completed the Training Program in Tokyo Dementia Research and Training Center;’ The 20<sup>th</sup> IAGG world Congress of gerontology and geriatrics(2013)
- ・‘An evaluation of training program for dementia care leaders carried out at Tokyo dementia care research and training center in 2011’ ; 28<sup>th</sup> International Conference of Alzheimer’s Disease (2013)

【講演】

- ・中村考一：『認知症の人とのコミュニケーション』メインシンポジウム3「変革期の公衆衛生学とヘルスコミュニケーション」第72回日本公衆衛生学会 (2013.10.25)

【社会活動】

- ・日本認知症ケア学会 認知症ケア上級専門士認定委員 (2012～)

⑥nakamura4851@dcnet.gr.jp



①飯田 勤 (いいた つとむ)

②研修主幹

③高齢者福祉, 住民参加の福祉のまちづくり

④以前は, 「老後の安心」をめざし, 地域住民のみなさんと行政の共同作業で福祉のまちづくりに取り組んできました。また, 介護施設等では, 職員と「認知症の人を支えるケアのあり方」について実践してきました。地域や介護施設等では多くの問題を抱えていますが,

現場にこそ解決のヒントがたくさん隠れています。東京センターでは, 研修生のみなさん

から話を聞きながら学び、考え、ともに目標に向かっていきたいと考えております。よろしくお願いたします。

⑥iida@dcnet.gr.jp



①進藤 由美 (しんどう ゆみ)

②研究主幹

③認知症ケア，海外在住高齢者(特に認知症)支援，日米社会保障制度

④平成 25 年 4 月に東京センターに着任いたしました。高齢者支援の経験は日本よりもアメリカの方が長いという一風変わった研究員ですが，その特徴(?)を活かし，自由な発想をもって研究に携わっていきたいと思います。

⑤2013 年度の業績

【論文】

「増えていく海外在留邦人高齢者 ～誰が，どこで，どのように支援するべきか～」  
財形福祉，p4，2013.8

【講演】

- ・進藤由美：「ニューヨークエリアに住む日本人高齢者」講演会「海外に渡航・在住する邦人高齢者が抱える問題 一旅行者・長期滞在者・永住者が安全・安心に暮らすために」特定非営利活動法人ジャムズネット東京．一般社団法人海外邦人安全協会 2013.7.26
- ・進藤由美：「米国および日本における現場の状況 ～ニューヨーク市と東京の似ている点と異なる点～」認知症日米戦略カンファレンス「認知症国家戦略と大都市の取組み」公益財団法人東京都医学総合研究所 2013.12.19

⑥y.shindo1304@dcnet.ne.jp



①小谷 恵子 (こたに けいこ)

②研修主幹

③高齢者福祉

④2014 年 3 月に着任いたしました。私は，13 年間の現場経験の後，社会福祉士養成校の教員を経てセンターへまいりました。自身も学び続け，センタースタッフとしての役割を果たしていけるように尽力したいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

⑥kotani@dcnet.gr.jp

IV  
スタッフ紹介

凡例

- ①氏名
- ②常勤/非常勤  
役職と仕事の紹介
- ③専門分野
- ④自己紹介
- ⑤2013年度業績
- ⑥e-mailアドレス

研究・研修部

研修指導員 (併任)	涌井 雅也
事務員 (非常勤)	翠川 沙織
事務員 (非常勤)	本田 洋子
事務員 (非常勤)	南部谷 千昌

運営部

運営部長	佐藤 信人
運営部主管	中口 豪
運営部経理課長	五十嵐 保紀
運営部経理係長	佐々木 春男 (2014年3月まで勤務)
総務課長補佐	富島 理恵
事務員 (非常勤)	西澤 喜代子
事務員 (派遣)	中山 成美

V

運營部活動報告



# 1. 事業実績報告

## (1) 運営体制等

### ア 認知症介護研究・研修センター全国運営協議会の開催

3センターの運営等を協議する第14回認知症介護研究・研修センター全国運営協議会が、東京センターが当番となって2014年1月20日（月）に東京で開催した。

### イ 認知症介護研究・研修センター合同研究成果報告会の開催

3センターの平成24年度研究成果の報告会が、東京センターが当番となって2013年9月30日（月）に東京で開催した。

## (2) 研究・開発事業

厚生労働省老人保健健康増進等事業の助成を受け、「認知症地域支援推進員研修における効果的な人材育成のあり方と認知症地域支援推進員の活動体制の構築に関する研究事業」、厚生労働省介護報酬改定検証・研究委員会事業として「認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究事業」等について、研究・開発事業を実施した。

## (3) 研修事業

### ア 認知症介護指導者養成研修

認知症介護指導者養成研修を2回実施し、45名に対して修了証書を授与した。

### イ 認知症介護指導者フォローアップ研修

認知症介護指導者に対するフォローアップ研修を1回実施し、23名に対し修了証書を授与した。

### ウ 認知症地域支援推進員研修

認知症地域支援推進員にコーディネーターとしての知識・技術の習得を目的として、地域支援推進員研修を5回実施し、330名に対し修了証書を授与した。

### エ 認知症地域支援推進員フォローアップ研修

認知症地域支援推進員研修を修了した者を対象としてフォローアップ研修を3回実施し、124名に修了証書を授与した。

### オ ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修

認知症ケア高度化推進事業（2008年度～2010年度）で開発した「ひもときシート」普及のための実践者コース（1日）の研修会を3回実施し、129名が受講した。また、今年度から講師養成コース（2日）の研修会を年2回実施し、40名が受講した。

## (4) 普及・活用事業

### ア 東京センター研究成果報告会の開催

2012年度研究事業の研究成果報告会を、2013年7月8日（月）に東京センターにおいて開催し、認知症介護研究に対する関係者の理解を深めた。

### イ 認知症の人のケアマネジメント（センター方式）を活用した人材育成の推進

「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を共通ツールとして地域包括ケアを推進するための体系的な人材育成（研修等）の実施に関し、自治体や地域支援包括センター等からの問い合わせに対応し、企画立案の相談、研修に用いる教材や資料等の

紹介、講師の紹介等を行い、センター方式を活用した人材育成の普及・推進を行った。

#### ウ 認知症の体験世界や本人ネットワーク等の普及

なじみの交流コーナーを活用して認知症の体験世界や本人ネットワークの普及等これまでの研究成果の普及・活用を推進した。

#### エ 認知症地域資源連携検討事業の実施

厚生労働省からの補助を受け、全国各地域での認知症地域支援・体制作りを推進するために、全国で取り組まれた先進事例、好事例を収集・分析し、地域の取組みの事例情報を全国に伝える以下の事業を行った。1) 全国認知症地域支援体制推進会議（対象は主に都道府県の認知症施策担当者）を6月に東京で開催。2) 認知症地域支援体制推進全国合同セミナー（対象は主に市区町村の認知症施策担当者）を3回（7月、10月、1月）、東京センター大会議室にて開催した。3) 認知症地域支援体制普及セミナー（対象は主に自治体の現場で実際に取り組みを進めていく立場の関係者（地域包括支援センター、医療・介護関係の職員等））を2月に全国4地域（福岡県、広島県、東京都、福島県）で開催。4) 自治体／地域における認知症地域支援・体制作りの取組みを後方支援（①全国の自治体が取組みのポイントや地域事例等に関する情報を入手できるようにDCnetを使い情報発信。②都道府県による管内市区町村の合同セミナーの開催支援、③自治体からの情報提供依頼への個別対応）。

#### オ 認知症介護研究情報ネットワーク

2013年度の運用状況として、随時情報の更新等を行った結果、DCnetへのアクセス数（利用度）は昨年を上回る月平均438万Hitsであった。

#### カ 年報の発行

2012年度のセンターの研究事業、研修事業及びその他事業について、報告書にとりまとめ、年報として関係方面に配布した。

## 2. 2013年度 東京センター活動一覧

開催年月日	～ 修了年月日	研修会等の名称（開催場所）
平成 25 年 6 月 21 日	～ 平成 25 年 6 月 21 日	全国認知症地域支援体制推進会議（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 7 月 8 日	～ 平成 25 年 7 月 8 日	平成 24 年度研究成果報告会「認知症ケアセミナー」（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 7 月 11 日	～ 平成 25 年 9 月 13 日	第 1 回認知症介護指導者養成研修（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 7 月 25 日	～ 平成 25 年 7 月 26 日	第 1 回認知症地域支援体制推進全国合同セミナー（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 8 月 12 日	～ 平成 25 年 8 月 13 日	第 1 回ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修 講師養成コース（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 8 月 13 日	～ 平成 25 年 8 月 13 日	第 1 回ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修 実践者コース（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 9 月 19 日	～ 平成 25 年 9 月 21 日	第 1 回認知症地域支援推進員研修（パビヨン 24 オフィス：福岡県）
平成 25 年 9 月 30 日	～ 平成 25 年 9 月 30 日	平成 24 年度認知症介護研究・研修センター合同研究成果報告会（ステーションコンファレンス東京 サピアホール）
平成 25 年 10 月 3 日	～ 平成 25 年 10 月 5 日	第 2 回認知症地域支援推進員研修（TKP 札幌カンファレンスセンター：北海道）
平成 25 年 10 月 7 日	～ 平成 25 年 12 月 6 日	第 2 回認知症介護指導者養成研修（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 10 月 17 日	～ 平成 25 年 10 月 18 日	第 2 回認知症地域支援体制推進全国合同セミナー（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 10 月 31 日	～ 平成 25 年 11 月 2 日	第 3 回認知症地域支援推進員研修（トラストシティカンファレンス仙台：宮城県）
平成 25 年 11 月 11 日	～ 平成 25 年 11 月 12 日	第 1 回認知症地域支援推進員フォローアップ研修（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 12 月 11 日	～ 平成 25 年 12 月 11 日	第 2 回ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修 実践者コース（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 12 月 16 日	～ 平成 25 年 12 月 18 日	第 4 回認知症地域支援推進員研修（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 25 年 12 月 19 日	～ 平成 25 年 12 月 20 日	第 2 回認知症地域支援推進員フォローアップ研修（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 26 年 1 月 9 日	～ 平成 26 年 1 月 10 日	第 2 回ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修 講師養成コース（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 26 年 1 月 10 日	～ 平成 26 年 1 月 10 日	第 3 回ひもときシートを活用した認知症ケアの気づきを学ぶ研修 実践者コース（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 26 年 1 月 16 日	～ 平成 26 年 1 月 18 日	第 5 回認知症地域支援推進員研修（ティーオージー：大阪府）
平成 26 年 1 月 20 日	～ 平成 26 年 1 月 20 日	第 14 回認知症介護研究・研修センター全国運営協議会（KKR ホテル東京）
平成 26 年 1 月 23 日	～ 平成 26 年 1 月 24 日	第 3 回認知症地域支援体制推進全国合同セミナー（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 26 年 1 月 30 日	～ 平成 26 年 1 月 31 日	第 3 回認知症地域支援推進員フォローアップ研修（認知症介護研究・研修東京センター）
平成 26 年 2 月 3 日	～ 平成 26 年 2 月 7 日	第 1 回認知症介護指導者フォローアップ研修（認知症介護研究・研修東京センター）

平成 26 年 2 月 6 日	～ 平成 26 年 2 月 6 日	認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究 聞き取り調査 (デイサービスつむぎ：東京都)
平成 26 年 2 月 7 日	～ 平成 26 年 2 月 7 日	認知症地域資源連携検討事業認知症地域支援体制普及セミナー (レゾラNTT夢天神ホール：福岡県)
平成 26 年 2 月 11 日	～ 平成 26 年 2 月 11 日	認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究 聞き取り調査 (デイサービス モア・サロン福寿：北海道)
平成 26 年 2 月 14 日	～ 平成 26 年 2 月 14 日	認知症地域資源連携検討事業認知症地域支援体制普及セミナー (広島 YMCA 国際文化センター：広島県)
平成 26 年 2 月 21 日	～ 平成 26 年 2 月 21 日	認知症地域資源連携検討事業認知症地域支援体制普及セミナー (日本青年館：東京都)
平成 26 年 2 月 21 日	～ 平成 26 年 2 月 21 日	認知症の地域におけるケアと医療との連携に関する研究アクションミーティング (方南会館：杉並区)
平成 26 年 2 月 24 日	～ 平成 26 年 2 月 24 日	認知症介護実践者等養成事業都道府県等行政担当者セミナー (認知症介護研究・研修東京センター)
平成 26 年 2 月 25 日	～ 平成 26 年 2 月 25 日	認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究 聞き取り調査 (嬉野温泉病院：佐賀県)
平成 26 年 2 月 26 日	～ 平成 26 年 2 月 26 日	認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究 聞き取り調査 (ものわすれメンタルクリニック：福岡県)
平成 26 年 2 月 28 日	～ 平成 26 年 2 月 28 日	認知症地域資源連携検討事業認知症地域支援体制普及セミナー (福島県文化センター：福島県)
平成 26 年 3 月 1 日	～ 平成 26 年 3 月 1 日	認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究 聞き取り調査 (難波御堂筋ホール：大阪府)
平成 26 年 3 月 20 日	～ 平成 26 年 3 月 20 日	認知症の地域におけるケアと医療との連携に関する研究アクションミーティング (認知症介護研究・研修東京センター)
平成 26 年 3 月 24 日	～ 平成 26 年 3 月 24 日	認知症の地域におけるケアと医療との連携に関する研究アクションミーティング (成田会議室：杉並区)

---

2013年度 認知症介護研究・研修東京センター 年報

---

発行日：2014（平成26）年7月31日

発行：社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター  
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1  
TEL. 03-3334-2173  
FAX. 03-3334-2718  
E-MAIL. [tokyo\\_dcrc@dcnet.gr.jp](mailto:tokyo_dcrc@dcnet.gr.jp)  
URL. <http://www.dcnet.gr.jp/center/tokyo/>

---